博　多　12

―― 博多遺跡群第35次調査 ――

福岡市埋蔵文化財調査報告書第177集

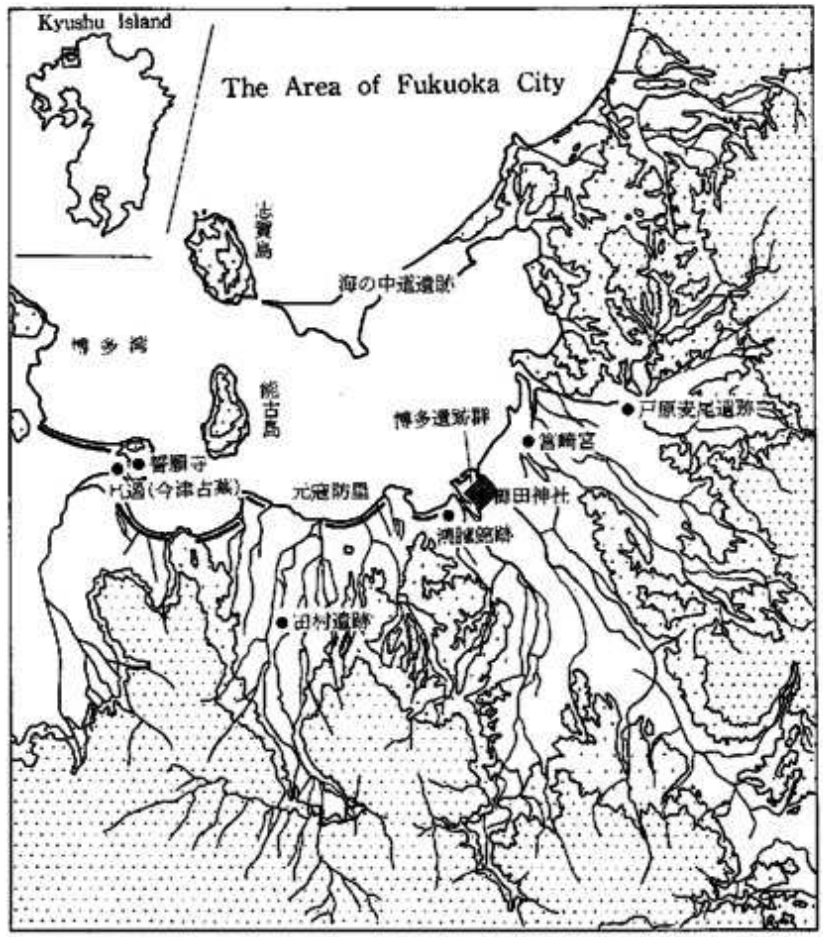
1988

福岡市教育委員会

博　多　12

── 博多遺跡群第35次調査 ──

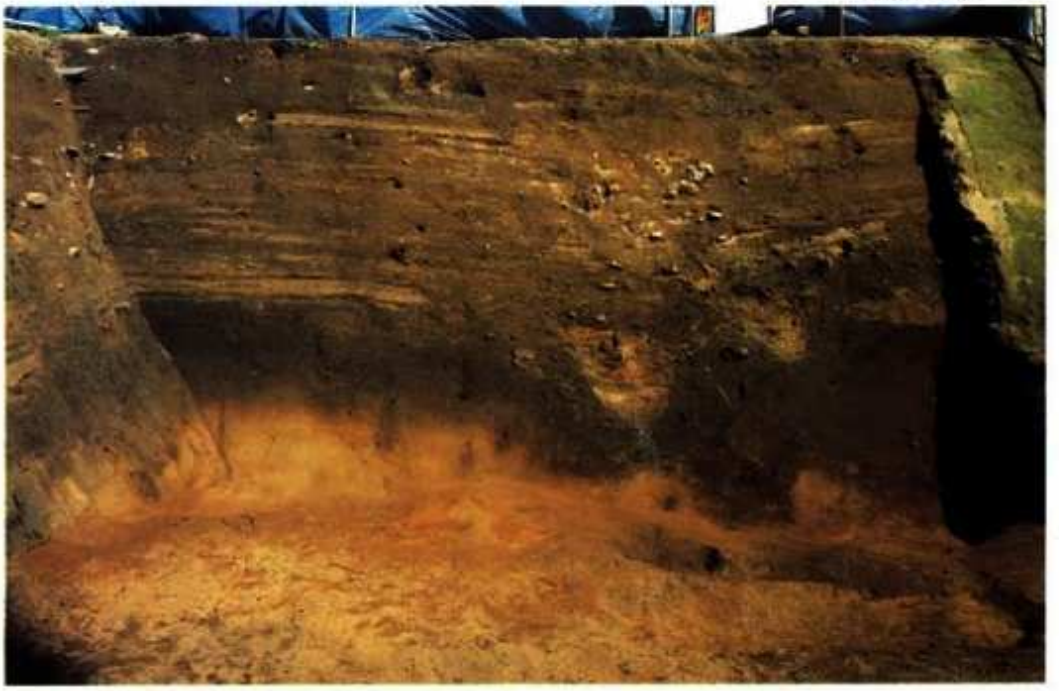
福岡市埋蔵文化財調査報告書第177集



遺跡調査番号　8648
遺 跡 略 号　HKT35

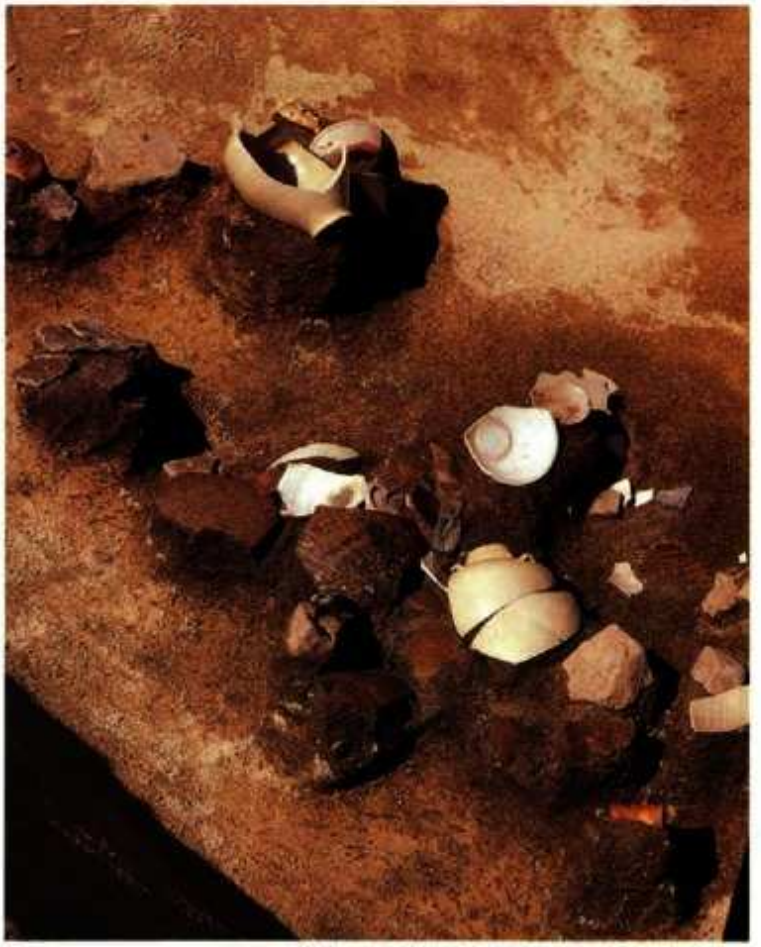
1988

福岡市教育委員会



ＳＦ－049　横断土層（北西より）

ＳＦ－049　１面全景（南西より）



ＳＫ－085内　陶磁器出土状況

ＳＤ－020　土留板と李朝青磁

ＳＫ－070内　出土漆器椀

序

現在、福岡都市圏の窓口として市街地の再開発が著しい旧博多部は、古代から中世にかけて対外貿易の一大拠点として歴史の表舞台に登場した地域でありました。

今回の調査でもそれを裏付ける古代から中・近世までのおびただしい遺構・遺物が検出されており、中でも13・14世紀から16世紀にわたる、中世都市博多の基幹道路と目される道路遺構の発見は極めて大きな収獲でありました。

本書が埋蔵文化財に対する認識と理解、さらには学術研究の場で活用されることを切に願っております。

調査に際し、御協力・御指導を賜わりました方々に心より感謝の意を表します。

昭和63年3月31日

福岡市教育委員会

教育長　佐藤　善郎

例　　言

1．本書は、福岡市教育委員会が1987～1988年度にかけて実施した博多遺跡群第35次調査の埋蔵文化財調査報告の遺構編である。

2．本書で用いる方位は真北とした。

3．本書に掲載した遺構番号はすべて通し番号であり、ＳＤ：溝、ＳＦ：道路、ＳＫ：土壙、ＳＥ：井戸、ＳＣ：竪穴住居、ＳＸ：集石・埋甕の略号である。

4．本書で用いる貿易陶磁器分類は「博多出土貿易陶磁分類表」(福岡市高速鉄道関係埋蔵文化財調査報告Ⅳ　博多(1)　福岡市埋蔵文化財調査報告書第 105集別冊1984年)に拠った。

5．本書に掲載した遺構実測図は、池崎譲二・加藤良彦の他、汐崎美紀・陳雅文・宮崎由美子(西南学院大学学生)、黒田和生、内海武則による。

6．本書に掲載した写真は、池崎、加藤、白石公高による。

7．本書の執筆・編集は、池崎の協力を得て加藤が行なった。

8．本書に関する遺物・記録類(写真・スライド・図面)は、整理終了後福岡市埋蔵文化財センターで収蔵・管理され、道路遺構の土層断面は昭和65年オープンの福岡市立博物館に展示される予定である。

本文目次

Ⅰ．調査に到る経緯……1
　1．調査に到る経過……1
　2．調査の組織……1
　3．調査経過……2
Ⅱ．博多遺跡群第35次調査の概要……3
　1．遺跡の位置と環境……3
　2．調査の概要……8
　　(1)古墳～奈良時代の遺構……24
　　(2)平安～中世の遺構……25
　　(3)近世の遺構……33
Ⅲ．まとめ……34

挿図目次

図1　ＳＦ－049土層剝ぎ取り作業風景……2
図2　博多遺跡群調査区位置図（1：10,000）……4
図3　福博古図……6
図4　35次調査区の位置（1：1,000）……7
図5　北トレンチ南壁土層図（1：60）……9
図6　東西トレンチ西壁土層図（1：60）……9
図7　南北トレンチ土層図……10
図8　調査区東壁土層図No.1・No.2（1：60）……10
図9　ＳＦ－049横断土層図（1：60）……11
図10　調査区第1面全体図（1：160）……12
図11　調査区第2面全体図（1：160）……13
図12　調査区2～3面間全体図（1：160）……14
図13　調査区第3面全体図（1：160）……15
図14　調査区第4面全体図（1：160）……16
図15　調査区第5面・5面下全体図（1：160）……17
図16　調査区第6面全体図（1：160）……18
図17　調査区第7面全体図（1：160）……19
図18　ＳＦ－049第1面全景……20
図19　ＳＦ－049第2面全景……20
図20　ＳＦ－049・2～3面間全景……21
図21　ＳＦ－049・第3面南半部全景……21
図22　ＳＦ－049第4面南半部全景……22
図23　ＳＦ　049第5面側溝（ＳＤ109・135）と5面下遺構南半部全景……22
図24　ＳＦ－049下第6面南半部全景……23
図25　ＳＦ－049下第7面南半部全景……23
図26　ＳＣ－123実測図（1：60）……24
図27　ＳＣ－123全景……24

図28　ＳＸ－100実測図（１：20）……24
図29　ＳＸ－100検出状況……24
図30　ＳＸ－100外蓋除去状況……24
図31　ＳＤ－020実測図内石組部分（１：40）……25
図32　ＳＤ－030……25
図33　ＳＤ－020……25
図34　ＳＤ－020裏込め……26
図35　ＳＤ－020裏込め……26
図36　ＳＤ－056新段階……26
図37　ＳＤ－056新段階土留板実測図（１：80）……26
図38　ＳＤ－082土留板実測図（１：80）……27
図39　ＳＤ－082土留板列……27
図40　ＳＤ－082土留板列……27
図41　ＳＤ－109内杭列……28
図42　ＳＤ－109……28
図43　ＳＤ－119内人骨……28
図44　人骨近景……28
図45　ＳＥ－140実測図（１：40）……29
図46　ＳＥ－140……29
図47　ＳＥ－057実測図（１：60）……30
図48　ＳＥ－057……30
図49　ＳＥ－075井筒内実測図（１：25）……30
図50　ＳＥ－075……30
図51　ＳＥ－075井筒内……30
図52　ＳＫ－085……31
図53　ＳＫ－085……31
図54　ＳＫ－085実測図（１：45）……31
図55　ＳＫ－029実測図（１：40）……32
図56　ＳＫ－029……32
図57　ＳＫ－059実測図（１：30）……32
図58　ＳＫ－059……32
図59　ＳＫ－059近影……32
図60　近世遺構と旧飯尾家家相図（１：270）……33
図61　側溝主軸方向模式図……34
図62　各調査区溝方向概念図（１：5000）……35

表目次

表１　博多遺跡群調査地点一覧……5
表２　遺構一覧表……36～47

Ⅰ．調査に到る経緯

1．調査に到る経過

明治22(1889)年、旧国鉄博多駅開設以後、九州の玄関口として発展してきた駅周辺地域は昭和50(1975)年の新幹線乗入れ、昭和58(1983)年福岡市高速鉄道(地下鉄)開通と、さらに重要度を増し、現在高層建築・道路整備などの再開発のラッシュである。これを受け民間開発に伴う緊急発掘調査も昭和62(1987)年度現在、37次にわたって行なわれている。

昭和60(1985)年12月5日、株式会社山一不動産より、博多区上呉服町56番地内におけるビル建設申請が教育委員会埋蔵文化財課になされた。埋蔵文化財課では、当該地が博多遺跡群内であること、隣接の博多駅、築港線2次調査区で遺構が確認されていることなどから、埋蔵文化財の包蔵を予想、61年6月26日試掘調査を行ない、遺構・遺物の包蔵を確認した。同課ではこの成果をもとに株式会社山一不動産との協議にはいり、同年11月15日より本調査を行なう事となった。

申請面積：876m²

調査面積：655m²

調査期間：昭和61(1986)年11月17日～62年6月8日

2．調査の組織

調査委託：株式会社山一不動産

調査主体：福岡市教育委員会

教育長　佐藤善郎

埋蔵文化財課長：柳田純孝

同課第2係長　：飛高憲雄

庶務担当：　松延好文

調査担当：　池崎譲二、加藤良彦

発掘・整理作業：高田マサエ、松尾キミ子、松尾鈴子、舎川春江、坂田セイ子、溝口武司、村田敬子、門司弘子、近藤澄江、柴田常人、百武義隆、津川眞千代、渋谷友代、古賀美恵子、衛藤富子、吉住シズエ、栗木和子、高木正代、窪田慧、谷吉美、松田純子、黒田和生、内海武則、大瀬良清子、国武真理子、小城信子、池田初実、陳雅文、汐崎美紀、町居則子、萩尾朱美、前田直子、三浦力、新田博和、山本キクノ、宮藤裕二、津村清次、髙田貴代、村嶋里子、西原由規子、宮崎由美子、能美須賀子、楢崎多佳子、堤瀧代、木村厚子

3．調査経過

1986年11月17日　第１次掘削開始
11月28日　遺構検出開始・道路遺構確認
12月23日　柱穴内より「大元通宝」出土
12月24日　第１面全景撮影・下面検出開始
1987年２月５日　ＳＦ049第２面全景撮影・下面検出開始
２月21日　ＳＫ059検出
３月５日　ＳＦ049第２～３面間全景撮影
３月19日　ＳＦ049第３面全景撮影
４月３日　ＳＫ085検出・ＳＥ075検出
４月11日　ＳＸ100検出
４月14日　ＳＦ049第４面全景撮影
４月20日　ＳＦ049第５面全景撮影
４月25日　ＳＦ049下第６面全景撮影
５月１日　ＳＥ140検出
５月２日　ＳＦ049下第７面全景撮影
５月７日　ＳＣ123検出
５月11日　ＳＦ049横断土層剝ぎ取り作業
６月８日　現場撤去

図１　ＳＦ－049土層剝ぎ取り作業風景

II．博多遺跡群第35次調査の概要

1．遺跡の位置と環境

博多遺跡群は、北を陸繋島である志賀島と海の中道、西を糸島半島さらに玄海島・能古島とによって囲まれた天然の良港である博多湾岸の南東部に位置する。

湾岸には、湾内を巡る左旋廻流と、瑞梅寺川・室見川・那珂川・多々良川などの諸河川の搬出する砂とによって著しい古砂丘の発達が見られ、当遺跡群はこれらのうち、那珂川の右岸に形成された「博多浜(櫛田浜・袖の浜)」・「沖(息)の浜」と称される二つの砂丘上に立地している。図2に見るごとく、西を那珂川及びその支流である博多川・東を中世末に開削されたと伝えられる石堂川・南を石堂川開削以前、砂丘南辺を西流し那珂川に合流していたと考えられる旧比恵川(中世末に房州堀として改削されたと伝えられる)にと、中世末には四方を水によって区画された地域である。

このうち、「博多浜」部には弥生中期前葉の甕棺墓が営なまれており、それ以前の形成であることが知られる。「沖の浜」部は下呉服町の第5次調査地点で地表下4.5mの位置から碇石が出土しており、古代段階までは形成途上にあった比較的新らしい砂丘であり、永仁元(1293)年成立の『蒙古襲来絵詞』下巻の詞書に「息の浜」の字句が伺がえ、弘安の役の年一弘安4(1281)年頃には陸化していた様である。この二つの砂丘間一呉服町交差点付近は故中山平次郎博士の論考以来、平清盛の開削により日宋貿易の拠点とされた「袖の湊」の故地と比定されていたが、地下鉄呉服町工区の調査によって、開削以前の11世紀後半には既に陸化していた事が確認され、二砂丘は陸橋により連続していた事が確かめられた。現地形の等高線もこの状況を如実に示している(図2)。

大陸と指呼の間にあるこの地は、江戸幕府の鎖国に至るまで常に対外交渉の表玄関としての役割を果たしてきた。先に述べた様に、弥生時代中期には甕棺墓群を成立させる集団となり、4世紀から5世紀初頭にかけては方形周溝墓群と70m級の前方後円墳を出現させるまでになっている。筑紫国造磐井の反乱後の536年那の津の官家の設置以降、奈良・平安時代には大宰府の要津、唯一の外港として軍事・外交の基幹をなし、平安後期から鎌倉前期にかけ居留唐・宋人の「博多大唐街」の形成・「袖の湊」の開削・聖福寺・承天寺・妙楽寺の禅寺の建立、13世紀末の鎮西探題の設置、室町幕府の九州探題の設置・勘合貿易の開始と、名実ともに九州の中心となる。しかし、平和裡の発展のみではなく、対外的には貞観11(869)年新羅海賊侵寇・寛仁2(1019)年刀伊の入寇・文永11(1274)年弘安4(1281)年の元寇、対内的には天慶3(940)年藤原純友の乱、元弘3(1333)年少弐の鎮西探題滅亡、永禄2(1559)年大友・筑紫惟門の戦い、永禄12(1569)年元亀2(1571)年大友・毛利の戦い、天正8(1574)年大友・龍造寺の戦い、天正11(1583)年大友・島津の戦いと、この地の富をめぐって繁栄と戦乱を繰り返し、天正14(1586)年島津の焼き

図２　博多遺跡群調査区位置図（１／10000）

表1　博多遺跡群調査地点一覧（昭和63年3月現在）

公共事業関係

符号	調査番号	調査原因	所在地（博多区）	調査面積(㎡)	調査期間	備考
A	7725	地下鉄建設	御供所町	1,412	77.12～78.11	御供所町二次・『博多鉄道関係Ⅳ博多(1)』1984『高速鉄道関係Ⅴ博多(2)』1988
B	7833	〃	御供所町他	4,500	79.3～12	祇園町上区・『高速鉄道関係Ⅵ博多(3)』1987
C	7835	〃	店屋町・上呉服町他	200	78.11～79.5	呉服町上区
D	7949	〃	博多駅前一丁目他	4,500	79.12～80.8	駅前二区
E	8037	〃	上呉服町	100	81.3	呉服町換気塔
F	8038	〃	冷泉町・祇園町	435	80.10～12	祇園駅2・3号出入口・『高速鉄道関係Ⅳ博多(1)』1984
G	8148	〃	御供所町	70	81.9	祇園駅4号出入口
H	8149	〃	祇園町	184	81.10～11	祇園駅5号出入口
I	8150	〃	高橋町・東比恵町	380	81.4～5	呉服町口入口
J	8435	〃	博多駅前二丁目	215	84.4	祇園駅P2出入口
K	8224	道路拡幅	上呉服町	630	82.11～83.3	築港線1次
L	8331	〃	〃	564	84.2～9	築港線2次
M	8404	〃	〃	417	85.2～12	築港線3次
N	8527	〃	御供所町	383	85.12～86.6	築港線4次
O	8653	〃	〃	380	86.10～87.2	築港線5次

民間事業関係

次	調査番号	調査原因	所在地（博多区）	調査面積(㎡)	調査期間	備考
1	7810	納骨堂建設	御供所町・東長寺境内	360	78.11～79.1	本調査
2	7928	ビル建設	高橋町99	約100	79.4	立会、土層図作成
3	7929	納骨堂建設	祇園町・聖福寺境内	240	79.11	本調査
4	7930	ビル建設	冷泉町7－1	1,100	79.12～80.3	本調査『博多』1981、『博多Ⅱ－区域編』1982
5	7931	〃	下呉服町346		79.12	試掘調査地表下4.5mから敲石出土
6	7932	〃	冷泉町155他	640	80.3～4	本調査
7	8023	〃	祇園町130	210	80.6～8	本調査
8	8024	本堂建設	御供所町・東長寺境町	600	80.8～10	本調査
9	8025	ビル建設	下呉服町75		80.9	試掘調査
10	8026	〃	冷泉町474－9	54	80.12	本調査『博多Ⅰ』1981
11	8027	〃	御供所町3－30		80.12	試掘調査
12	8127	〃	中呉服町152・153		81.6	試掘調査
13	8128	〃	駅前1丁目121～127		81.7	トレンチ調査
14	8129	〃	店屋町4－15	255	81.8	本調査
15	8130	駐車場建設	上呉服町369	100	81.8	試掘調査
16	8131	ビル建設	呉服町246～248	150	81.9	本調査
17	8132	〃	駅前1丁目98	910	81.11	本調査『博多Ⅲ』1985
18	8156	〃	駅前2丁目8－14		82.1	試掘調査
19	8323	社務所建設	櫛田神社境内	200	83.4	本調査
20	8324	ビル建設	駅前1丁目99	980	83.4	本調査『博多Ⅲ』1985
21	8325	〃	駅前1丁目18－1	150	83.5	本調査『博多Ⅲ』1985
22	8327	〃	冷泉町189他	840	83.9	本調査『博多Ⅲ』1985
23	8334	本堂建設	聖福寺境内	約300	84.2	本調査
24	8433	ビル建設	冷泉町1－1	250	84.4～5	本調査
25	8434	〃	祇園町1－1	100	84.5～6	本調査『博多Ⅴ』1985
26	8506	〃	上呉服町34	134	85.5～6	本調査『博多Ⅵ』1986
27	8507	〃	祇園町1－11	350	85.5～6	本調査『中部地区埋蔵文化財報告書第8集』1987に収録
28	8508	〃	御供所町70－2	1,800	85.5～8	本調査『博多Ⅷ』1987
29	8509	〃	綱場町22－67	330	85.7～9	本調査『博多Ⅷ』1987
30	8605	〃	御供所町36・37・38・39	495	86.5～7	本調査『博多Ⅸ』1987
31	8606	〃	御供所町65・66	190	86.5～7	本調査『博多Ⅹ』1987
32	8608	〃	祇園町21－1	約1,000	86.5～7	本調査
33	8618	〃	祇園町8他	898	86.7～11	本調査『博多11』1988
34	8645	〃	冷泉町238－2他	40	86.10～11	本調査
35	8648	〃	上呉服町56	655	86.11～87.5	本調査『博多12』1988
36	8725	〃	祇園町42他	644	S62.2～10	本調査
37	8740	〃	博多駅前1丁目129他	1,427	約[illegible]㎡	本調査

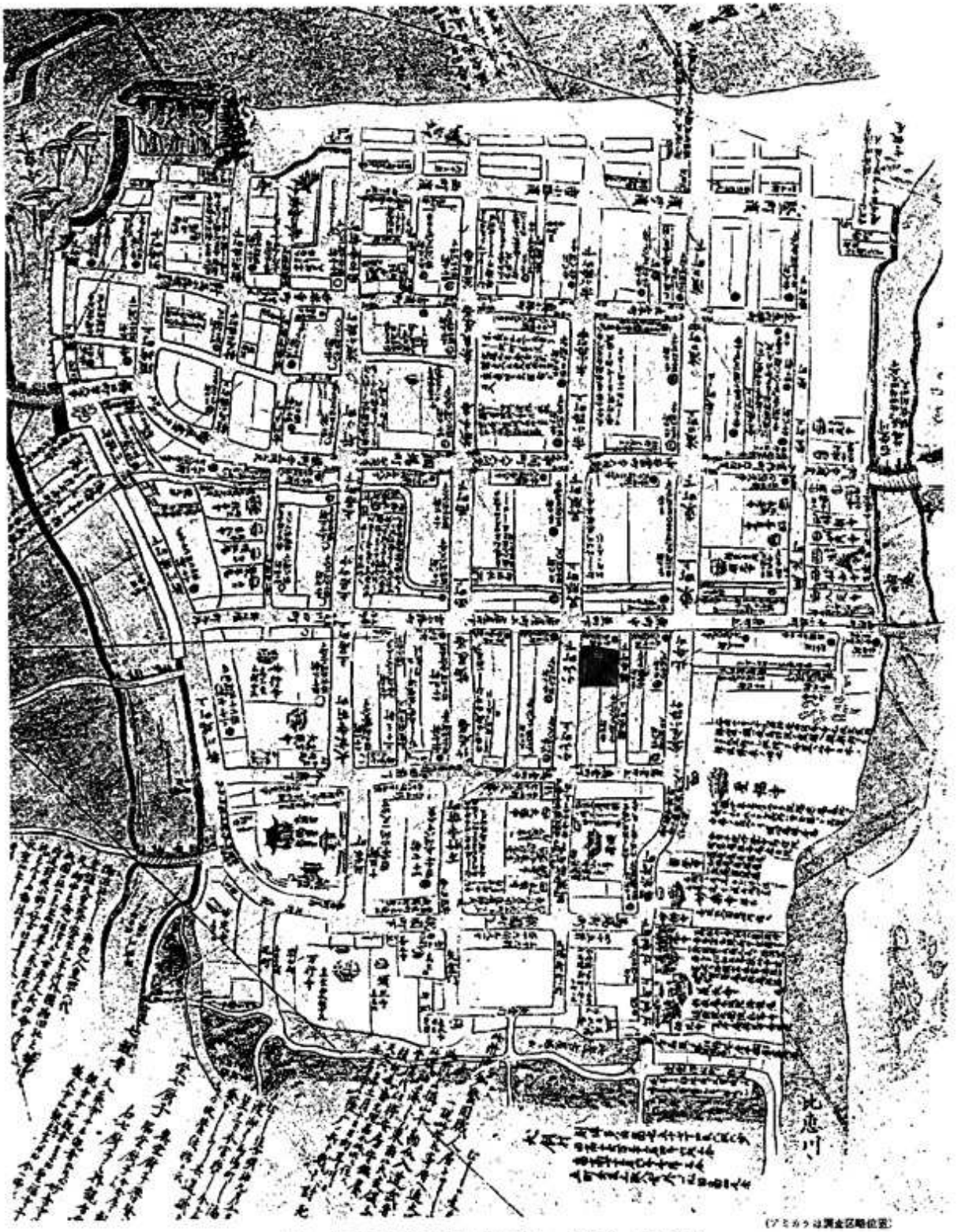


図3　福博古図(三奈木黒田家蔵・文化9－1812年)

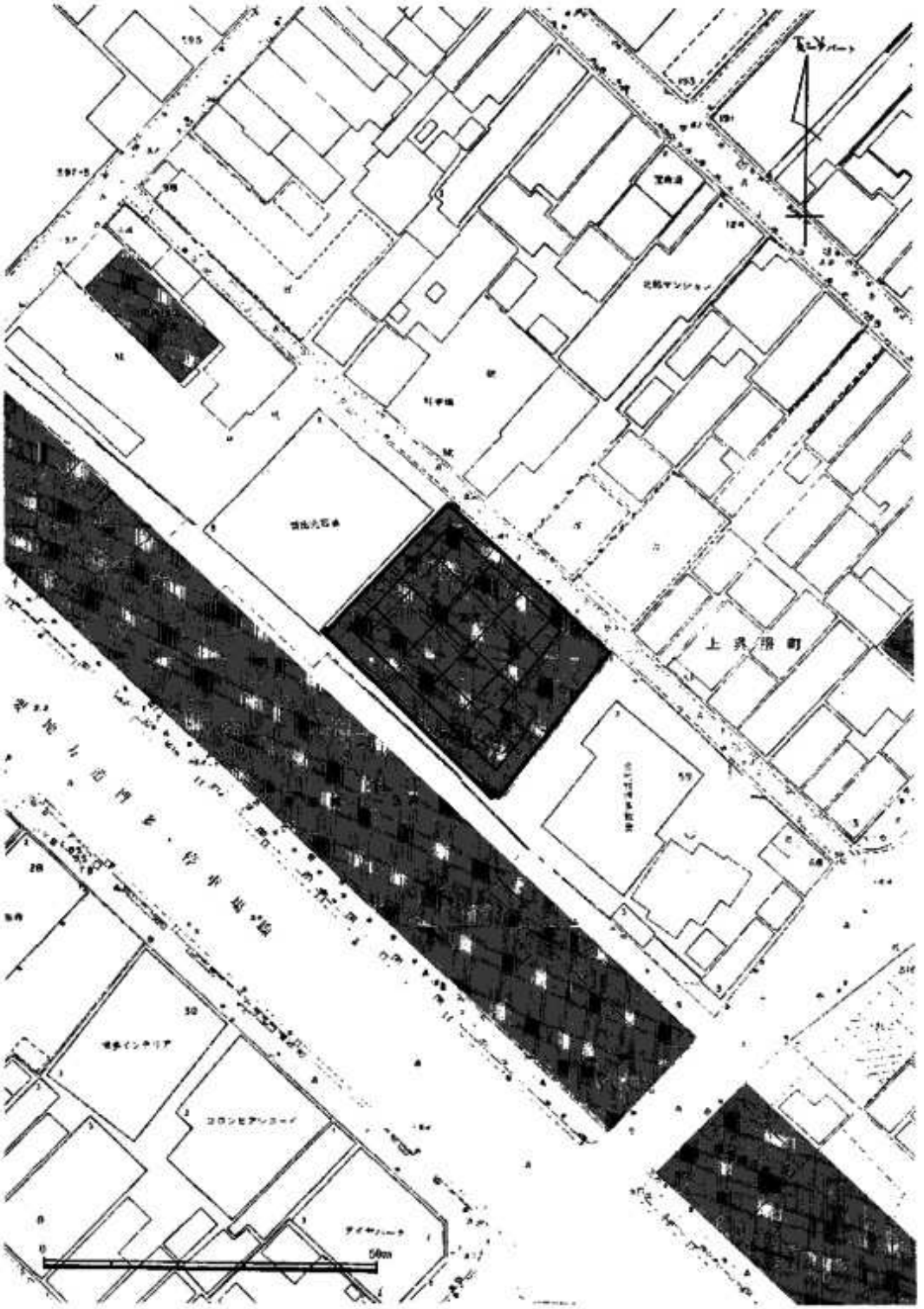


図4　35次調査区の位置（1：1000）

打ちによりことごとく焼き尽くされた。天正15(1587)年島津征伐に向かう太閤秀吉によって現町割に復興され、秀吉の思惑とも相俟って朝鮮出兵の兵站基地として往時の賑わいをとりもどすが、徳川幕府の鎖国により、国際貿易都市としての役割を長崎に譲り、「黄金の日々」に遥かに及ばぬ城下町・商業都市として明治を迎えるのである。

2．調査の概要

調査地点は「博多浜」砂丘の北西に延びた稜線上の最頂部を若干北側に下った、現地表標高約6.0mの地点に当たる。

安全確保のため境界から2.5mの引きを取り45°の法をつけ、678m²の調査区を設定。当初から上部の近世～現代の攪乱・包含層の除去・北西部分の地下構造物の撤去と、隣接する博多駅築港線調査2区の第1面にレベルを合わす目的で、地表より一気に1.8m掘り下げた。この重機による1次掘削終了の時点で中央部分の道路遺構に気付き、急遽南東側の壁面を清掃したところ、地表下60cmから連綿と続いている事を確認した。従がって南東部分で1m強の厚さで道路部分を無為に失なってしまっている。

道路部分は、土層断面の観察から、太閤町割で廃絶されたと思われる地表下60cmの面まで4面にわたる路面を確認、第1面以下も側溝と路面の重層が充分予想されたため、第1面完掘・写真撮影終了後、慎重を期すため横方向に3本(北トレンチ・東西トレンチ・南トレンチ)・縦方向に1本のトレンチ(南北トレンチ)を設定し、側溝の掘り込み面を確認しながら調査を進めた。13世紀末・14世紀初頭から15世紀中頃にかけての、都合6面にわたる道路面と、それ以前の12～13世紀末・14世紀初頭にわたる生活面を3面確認した。

道路両脇の遺構面は、側溝の覆土と掘り込み面の地山土とが明瞭に区別できず、遺構面側での側溝の掘り込み面を確定できなかった。このため調査は道路部分と切り離なし、任意のレベルで掘り下げる従来の方式にのっとり、5面にわたって調査を行なった。また、調査の日程の関係から道路部分も第5面以下は南半と北半の2ブロックに分割して掘削しており、遺構面を含め都合3つのブロックを回転させる複雑な工程となっている。従がって、全体図の6・7面以外は、道路遺構の時期と各遺構面検出の遺構の時期とが近接するものを並記しており、必ずしも一致していない。

遺構の時期としては、鎌倉～室町期が大部分を占めるが、7世紀後半の竪穴住居を最古に、近・現代までに及んでいる。

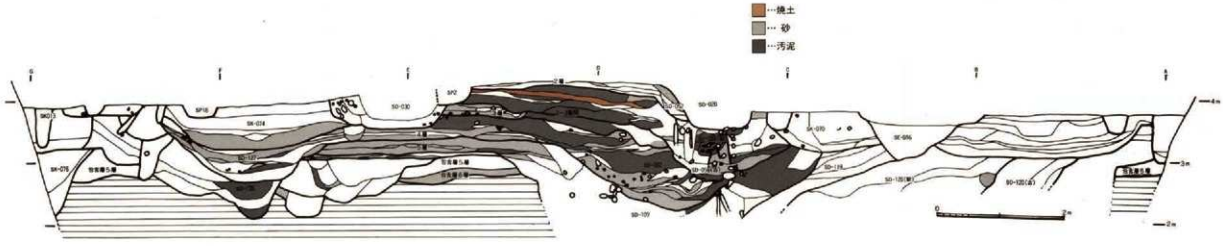


図5　北トレンチ南壁土層図（1/60）

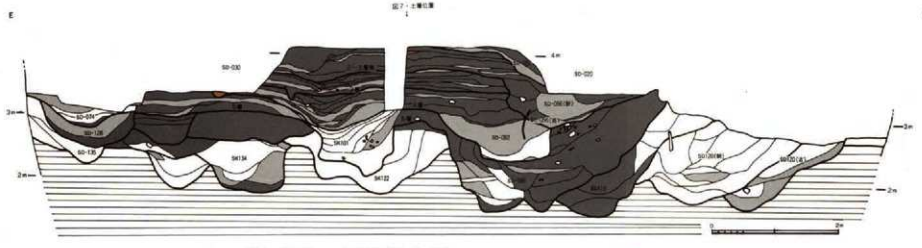


図6　東西トレンチ南壁土層図（1/60）

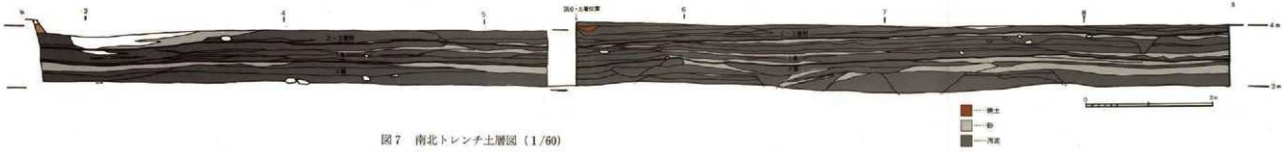


図7　南北トレンチ土層図（1/60）

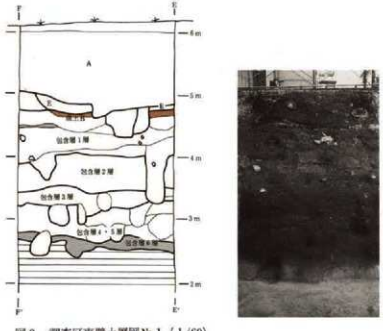
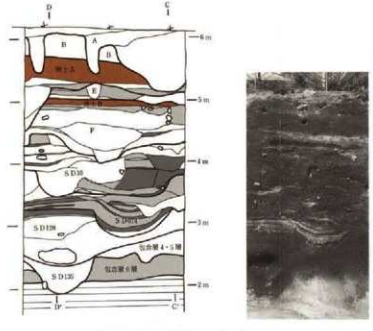


図8　調査区東壁土層図№1（1/60）



調査区東壁土層図№2（1/60）

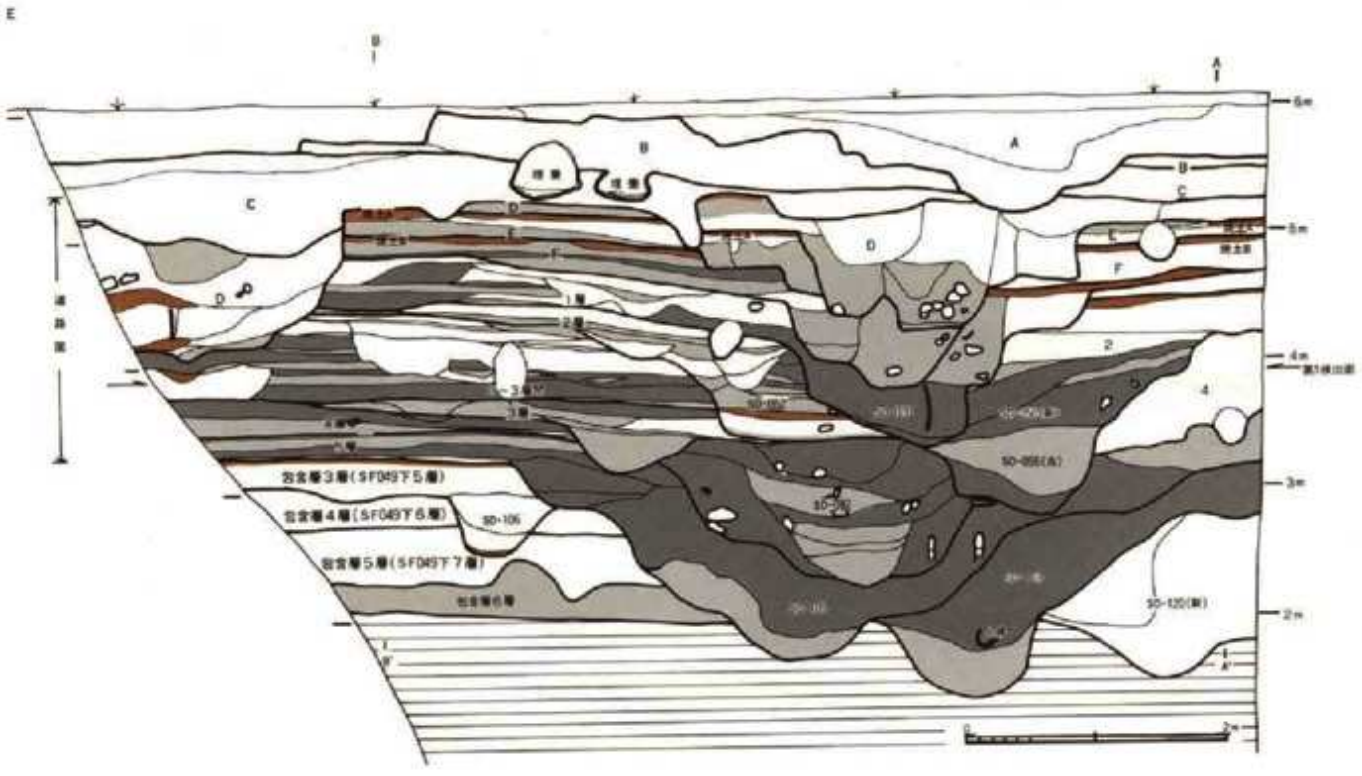


図9．ＳＦ049横断土層図（1/60）

A …近現代層
B …近世整地層
C …中世末整地層
SF049・D …道路最上層(上面→道路最上面)
(下面→道路第２面)
SF049・E …道路第２層(下面→道路第３面)
SF049・F …道路第３層(下面→道路第４面)

SF049・1層下面……今調査道路１面(通算第５面)↔SD-020, 030
SF049・2層下面……今調査道路２面(通算第６面)↔SD-052
SF049・2～3層間下面…今調査道路2'～3面(通算第７面)↔SD-056
SF049・3層下面……今調査道路３面(通算第８面)↔SD-074
SF049・4層下面……今調査道路４面(通算第９面)↔SD-109, 128
SF049・5層下面……今調査道路５面(通算第10面)↔SD-119, 135
SF049・下5層……↔SD106, 119
SF049・下6層……
SF049・下7層……

包含層１層
(遺構１面)
包含層２号
(遺構２面)
包含層３層(黒褐色粘質土)
(遺構３面)
包含層４層(黒褐～暗褐色砂質土)
(遺構４面)
包含層５層
(遺構５面)
包含層６層(最下層～黄砂)
(遺構６面)

検土A……天正８(1580)年
検土B……永禄２(1559)年
……検土層
……砂　層
……汚泥層

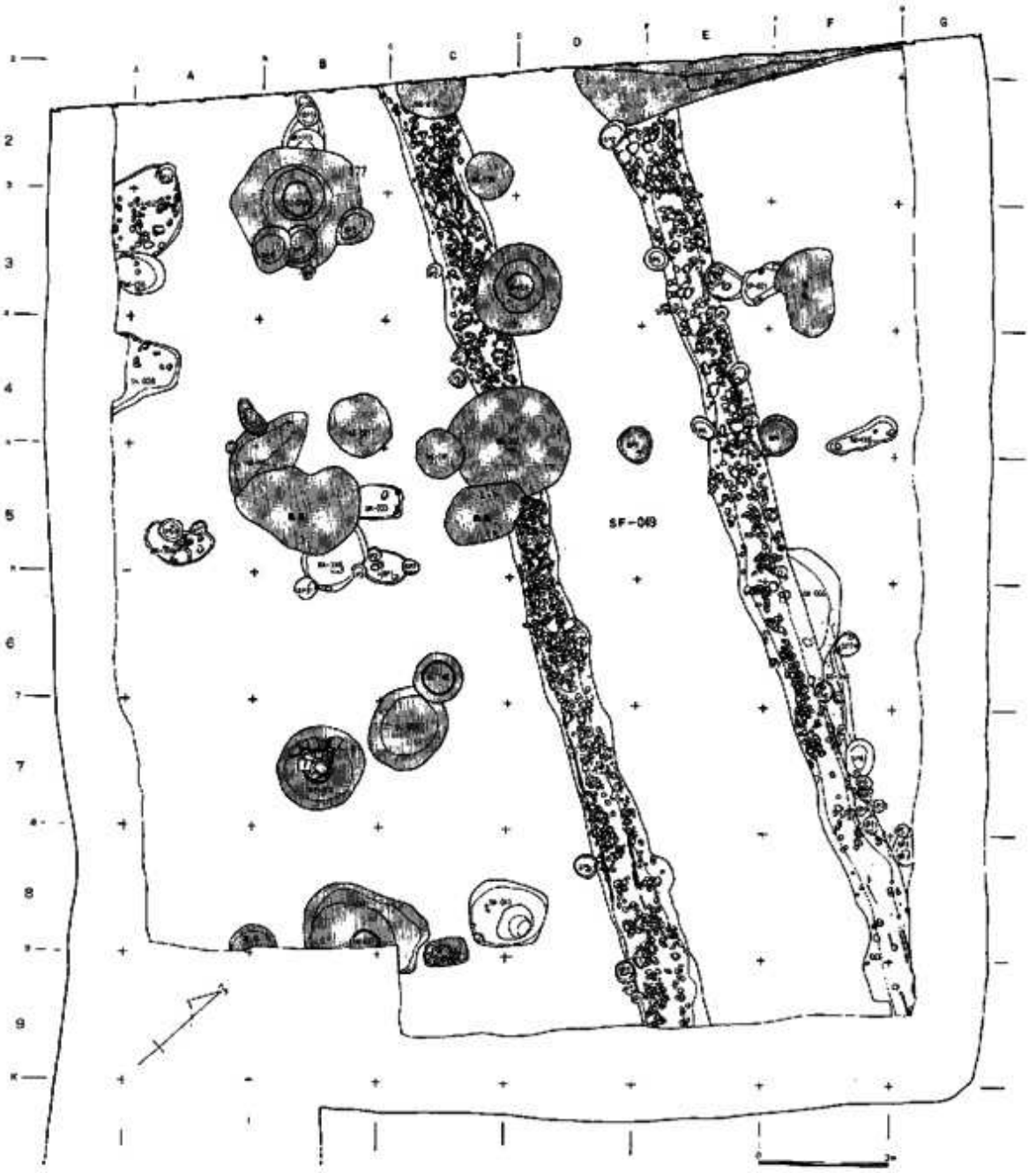


図10．調査区第１面全体図（1/160）

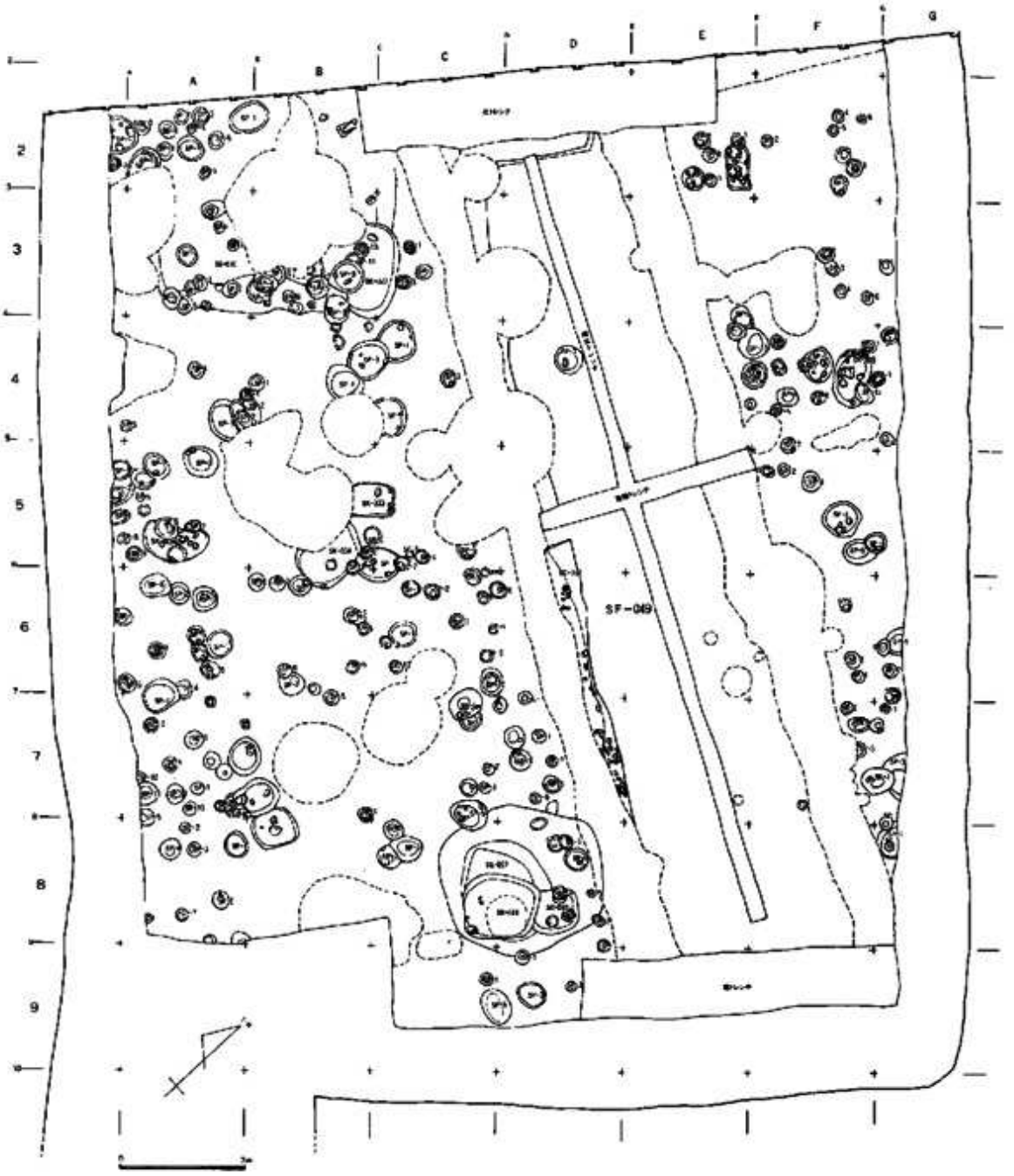


図11　調査区第２面全体図（1/160）

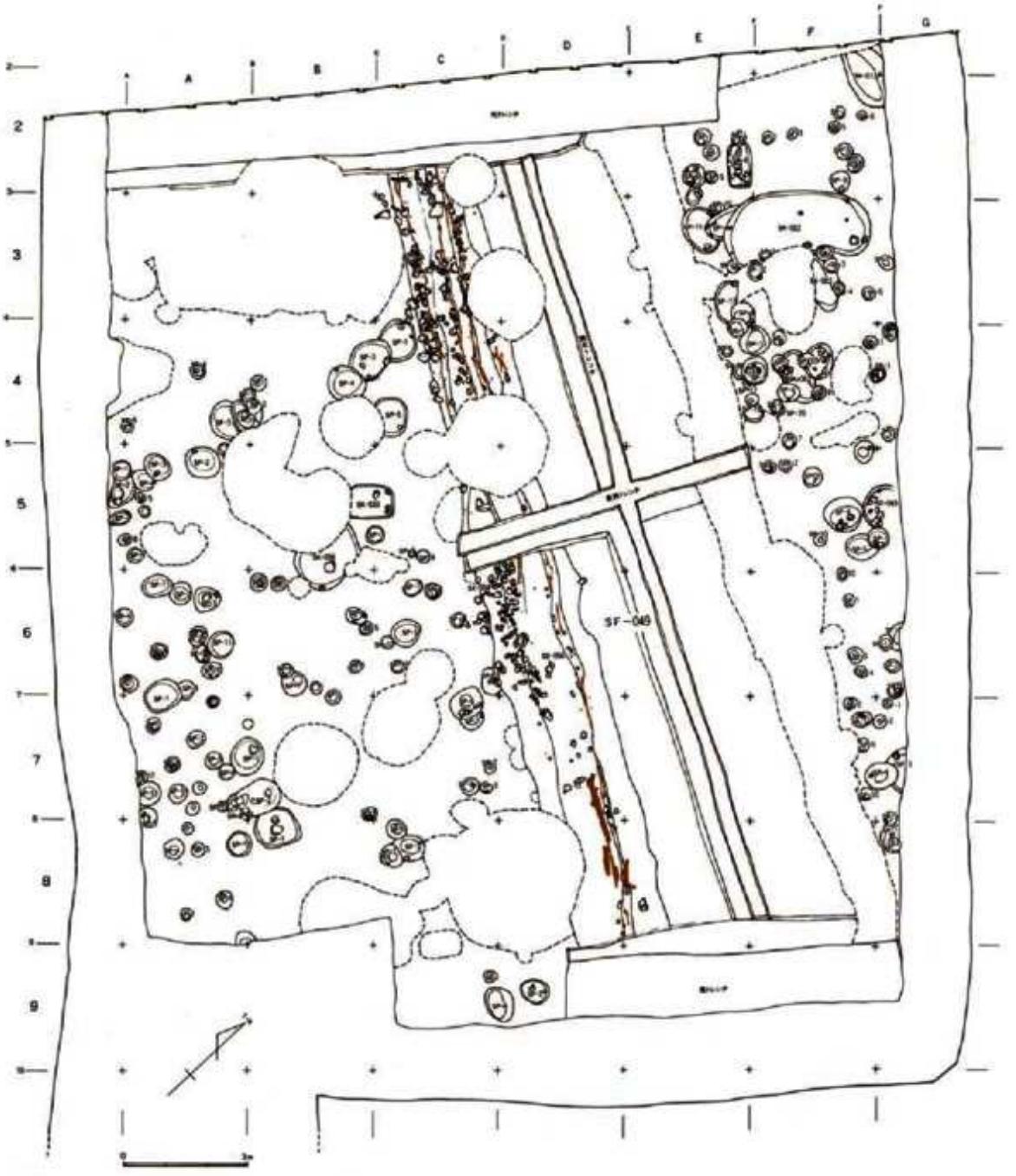


図12　調査区２～３面間全体図（1/160）

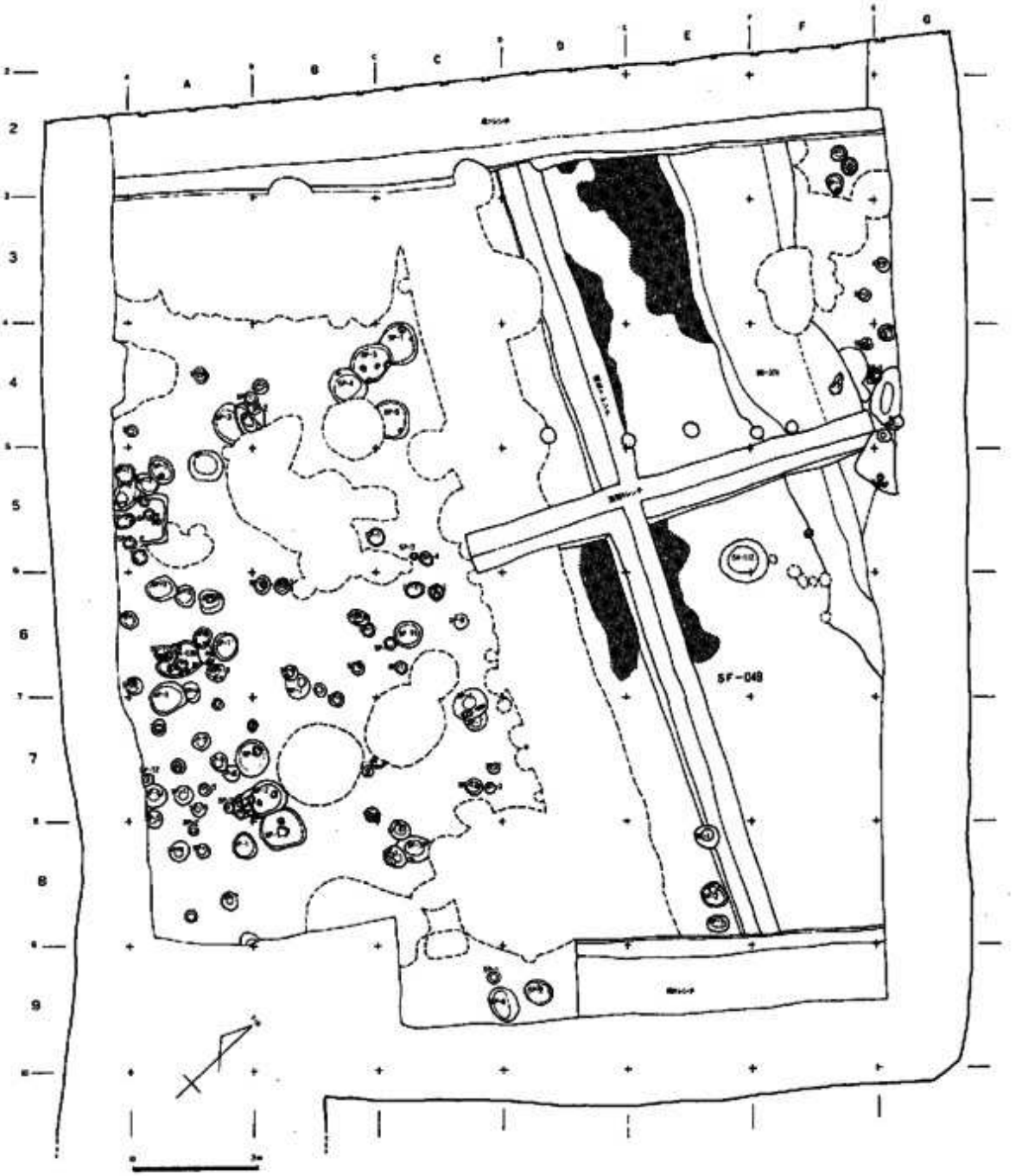


図13　調査区第３面全体図（1/160）

アミカケは盛石部分

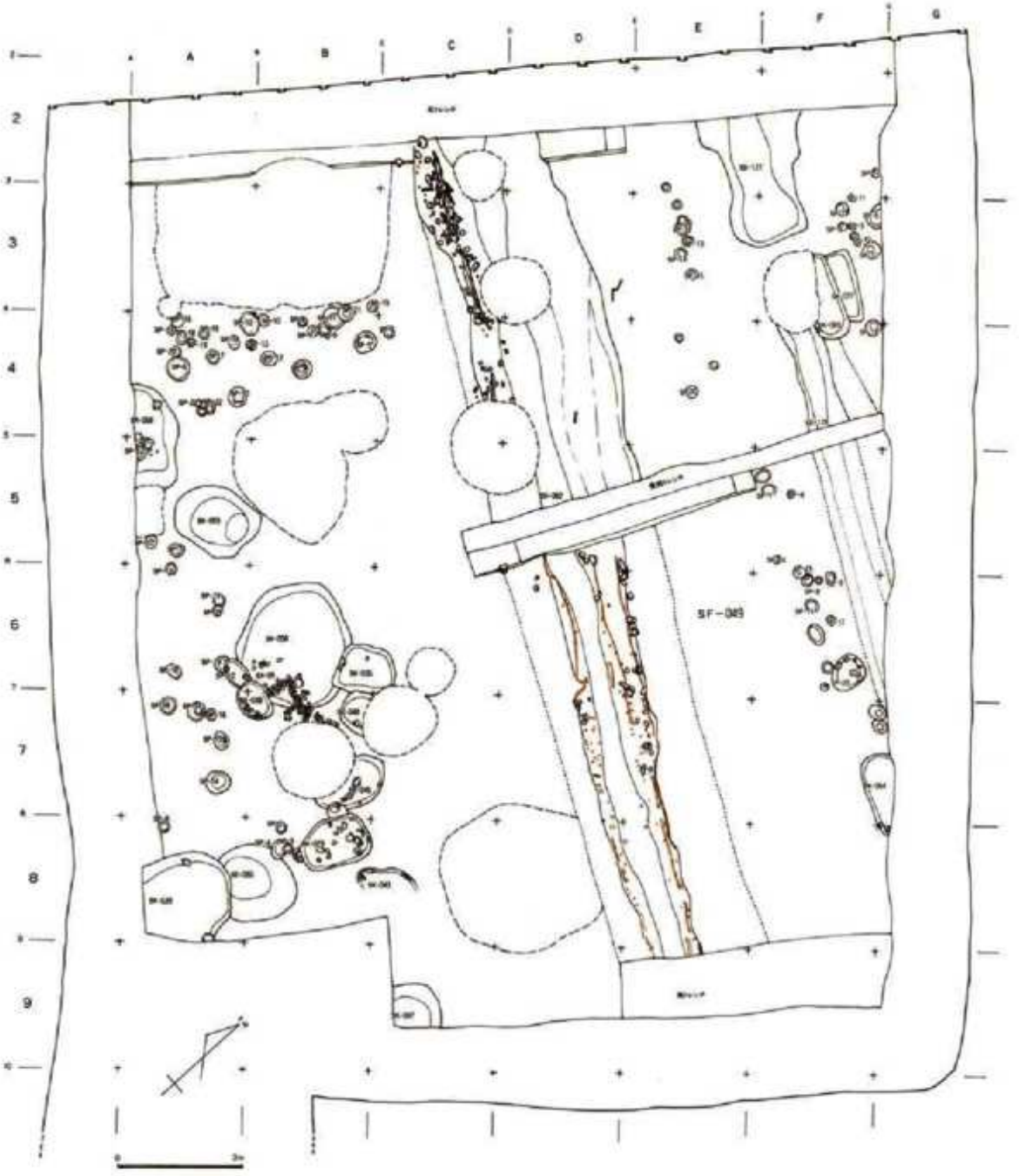


図14　調査区第４面全体図（1/160）

赤線は土留板・杭

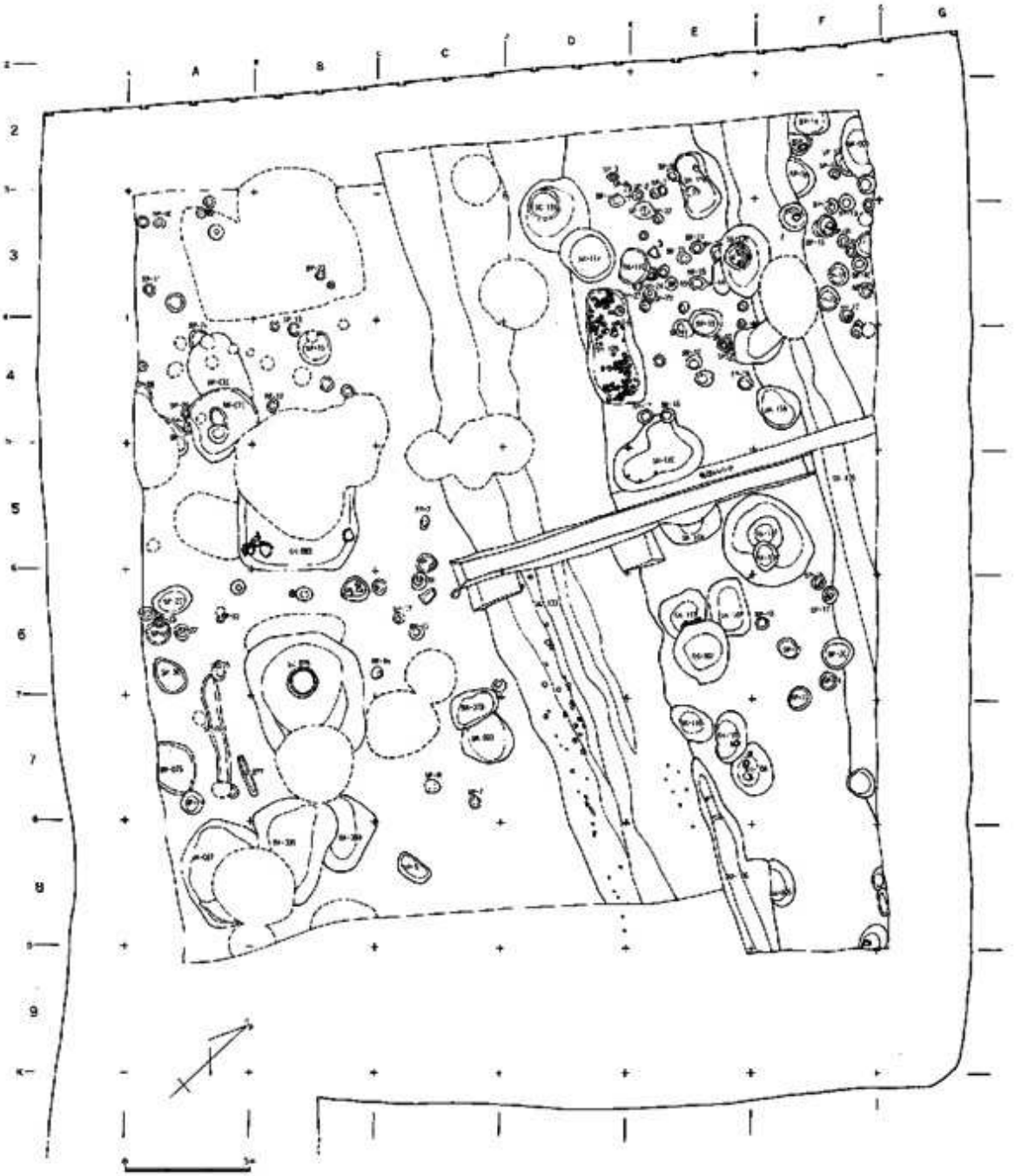


図15　調査区第５面・５面下全体図（1/160）

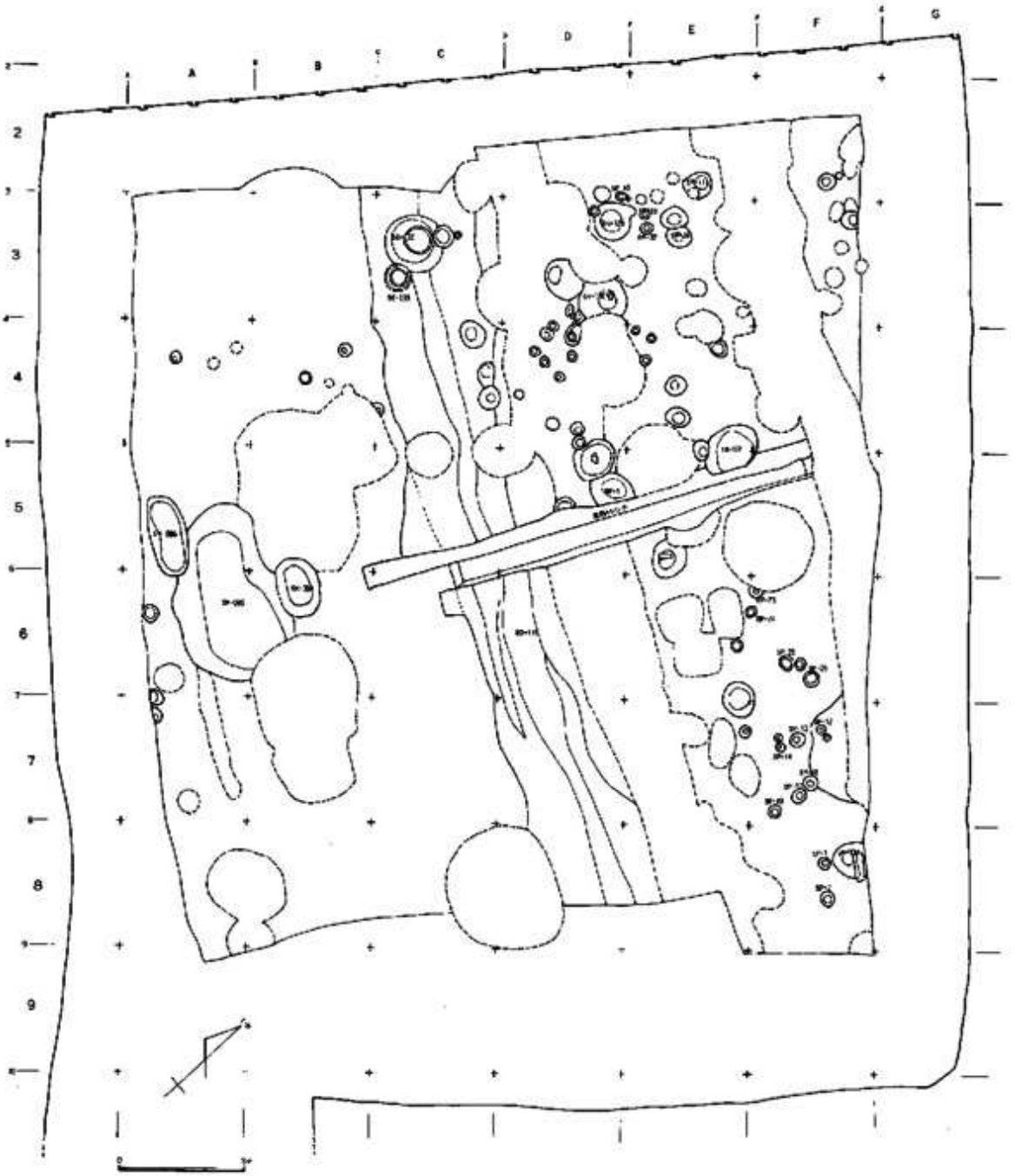


図16　調査区第６面全体図（1/160）

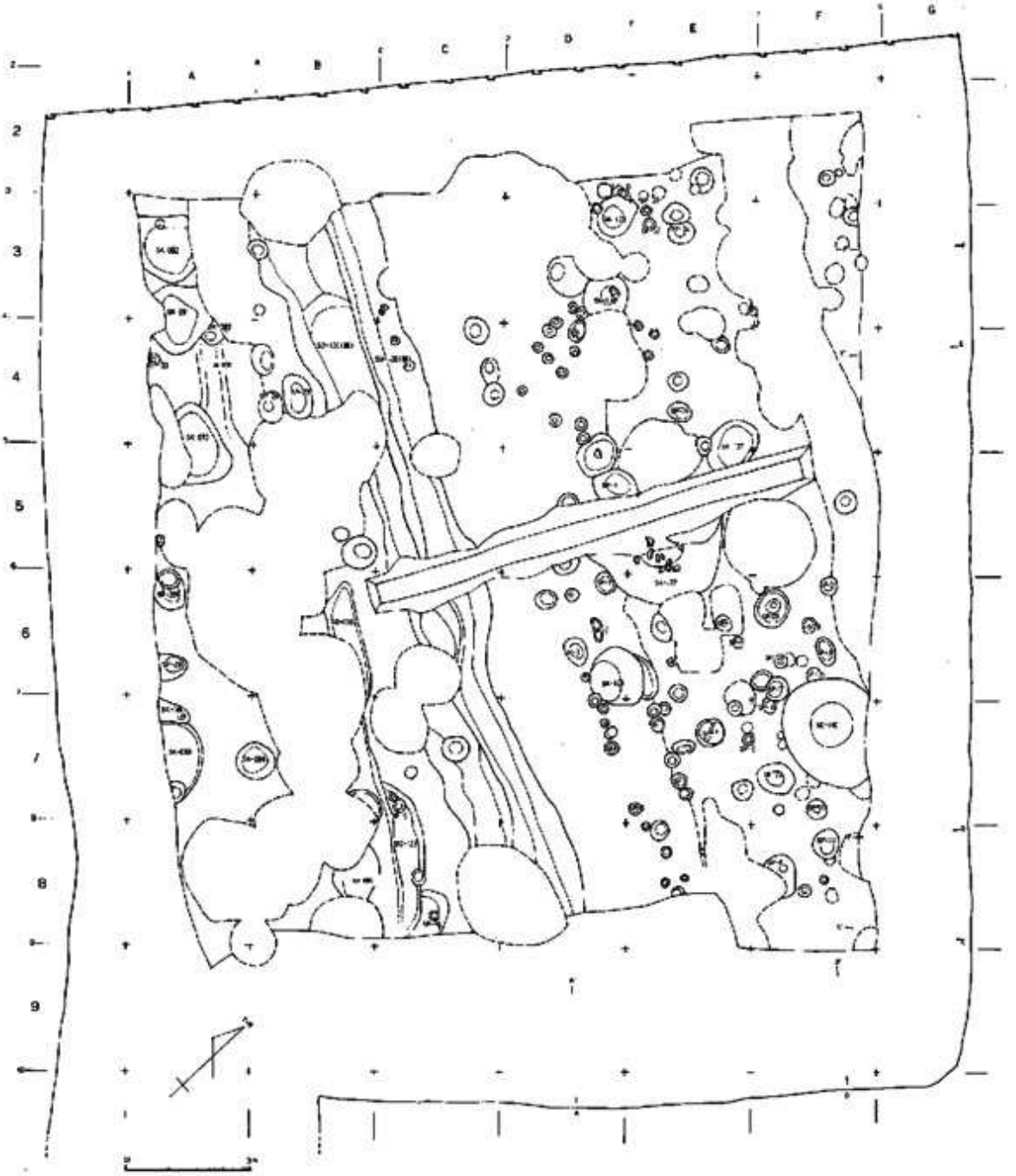


図17　調査区第７面全体図（1/160）

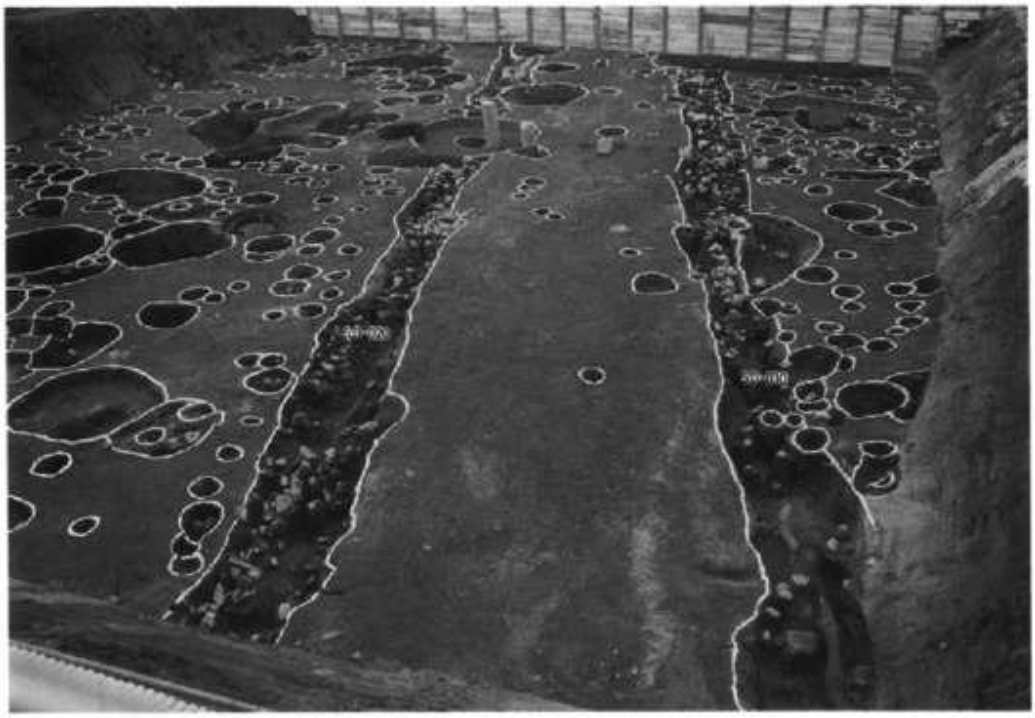


図18　ＳＦ－049第１面全景（南東より）

図19　ＳＦ－049第２面全景（南東より）

図20　ＳＦ－049・２～３面間全景（南東より）

図21　ＳＦ－049・第３面南半部全景（南東より）

図22　ＳＦ－049第４面南半部全景（南東より）

図23　ＳＦ－049第５面側溝（ＳＤ109・135）と５面下遺構南半部全景（南東より）

図24　ＳＦ－049下第６面南半部全景（南東より）

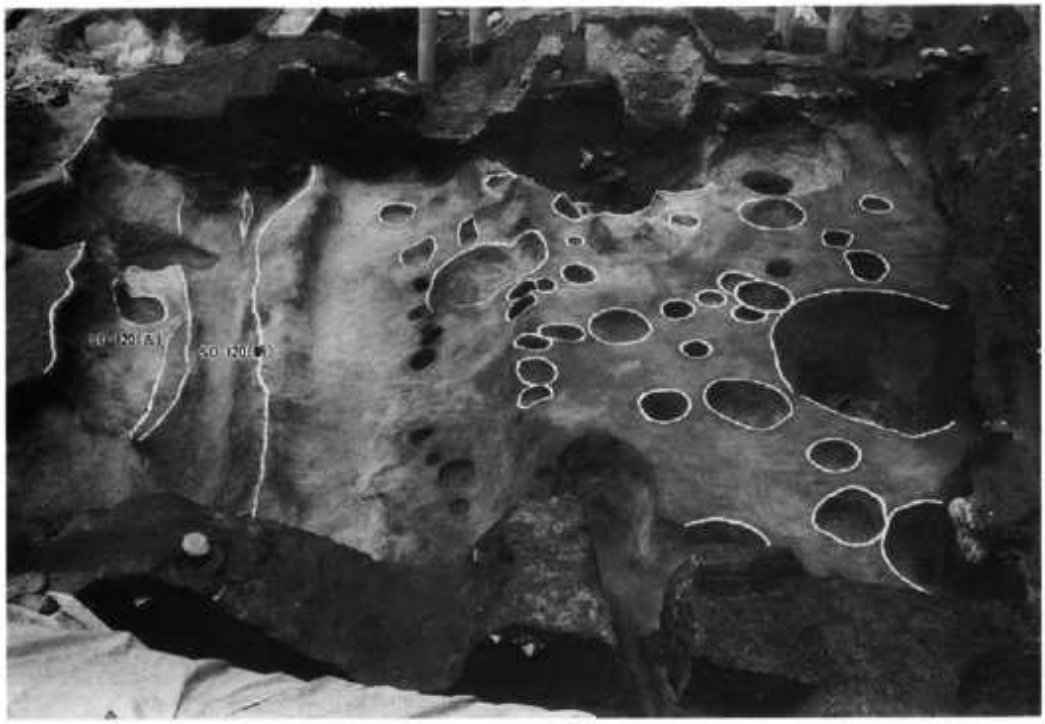


図25　ＳＦ－049下第７面南半部全景（南東より）

(1) 古墳～奈良時代の遺構

今回の調査で検出された該期の遺構は、7世紀後半の竪穴住居と思われる遺構(ＳＣ123)と、8世紀中頃の埋甕(ＳＸ100)、8世紀後半の土壙(ＳＫ094、099)のみである。ともに暗褐色砂質土を除去した基盤層(黄白色砂)上(遺構面第5面・ＳＦ049下第7面)で確認している。ただし、該期の須恵器・土師器等の遺物は、上部の暗褐色包含層を含め、平安～中世の遺構内に多量に混在して全面に広がっている。遺構は実際は、暗褐色土中から掘り込まれていると思われるが、遺構覆土と周囲との判別が難かしく、結局包含層とともに掘削され、深い遺構のみが基盤層中に残って検出されていると思われる。

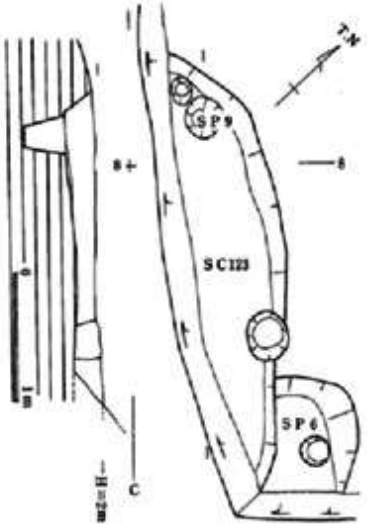


図26　ＳＣ－123実測図（1/60）

ＳＣ123(図26・27)　Ｃ－6～7グリッドに存する。大半が調査区外にあるため断定はできないが、隅丸方形の竪穴式住居の可能性が高い。主軸をＮ－50°－Ｗにとり、一辺が3.6～3.8 m前後を測る。深さは28cm、底面標高は1.76mを測る。北西壁際の柱穴が主柱穴と思われ、径31、深34cmを測る。

図27　ＳＣ－123全景（東より）

ＳＸ100(図28～30)　Ａ－7グリッドに存する。掘り方が明瞭でないが、径80cm、深20cm程の中に口縁外径17.8cm器高13.4cmの土師器甕を置き、径14.0、器高 2.8cmの須恵器坏蓋を裏返えして中蓋とし、さらに径20.2、器高 3.5cmの須恵器坏蓋を外蓋として重ねて埋納している。甕内部には半分程砂が入り込んでいるのみで何も検出されなかった。地鎮か棺に用いられたものであろう。

ＳＫ094・099(図17)　ともに径92cm・176cmを測る円形の土壙で、内部からは須恵器・土師器の小片が出土する、廃棄物処理用の土壙と思われる。ＳＫ099はＳＸ100を切って明確な先後関係を示している。

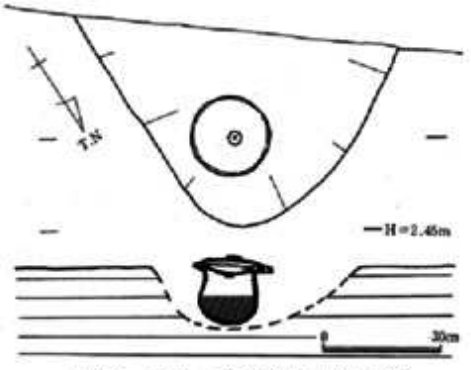


図28　ＳＸ－100実測図（1/20）

図29　ＳＸ－100検出状況（北東より）

図30　ＳＸ－100外蓋除去状況（北東より）

(2) 平安～中世の遺構

今回の調査の主体を成すもので、全遺構の８割近くを占める。13世紀末・14世紀初頭～16世紀末にかけての10面以上にわたる道路面と側溝、10世紀中頃～15世紀後半にかけての土壙90基・井戸９基・溝16条・石の集積５ケ所と柱穴多数を検出している。時期別の内訳は、平安時代が土壙16基・井戸４基・溝２条・鎌倉時代が土壙26基・井戸２基・道路・溝５条・石集積３ケ所、室町時代が土壙48基・井戸３基・道路・溝９条・石集積２ケ所となっており、室町期が全体の約５割を占め当該地の最盛期を示している。

①道路と側溝

今調査の主眼を成す遺構である。土層観察と遺構検出とにより、10面の道路面と側溝を確認している(図５～９)が、実際は前述の事由により(P8)、面としてとらえ得たのは半数の５面のみである。層位は、基本的には、側溝の底ざらえで排出された汚泥・砂を路上にかき上げ、その上を砂・砂質土で覆って整地する事の繰り返しで、砂と汚泥の互層となって路面が徐々にかさあげされていっている。これに合わせて居住区も盛土して順次かさ上げを行なうという次第で、このため300年程で２m近くも生活面が上昇する事態となっている。時期は、上面を焼土で覆われ遺構面が廃棄され路面となる第５面・13世紀末～14世紀初頭から、上部で広範囲に分布する２枚の焼土層(焼土A・B)をはさんでおそらく太閤町割(天正５－1587年)によると思われる整地によって(C層)居住区となって廃絶される、16世紀末までに及ぶ。

第１面とＳＤ－020・030(図10・18)　掘り下げ過ぎのため側溝のみで路面が残っていないが、土層観察より、標高 4.2～4.85m間に路面が確認され、居住区より若干高くなっている。側溝はそ

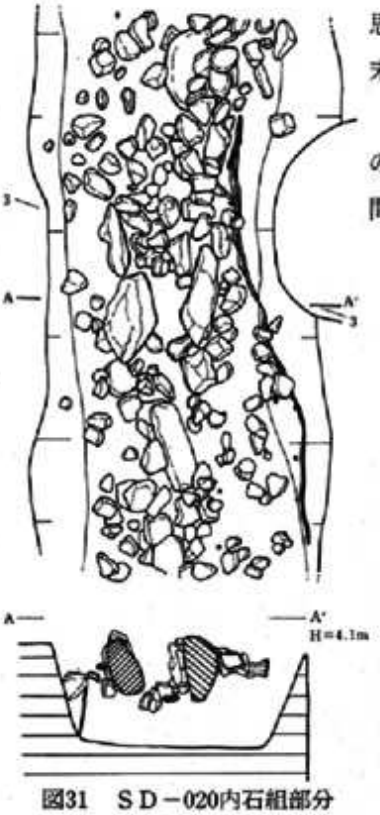


図31　ＳＤ－020内石組部分
(1/ 40)

図32　ＳＤ－030（北西より）

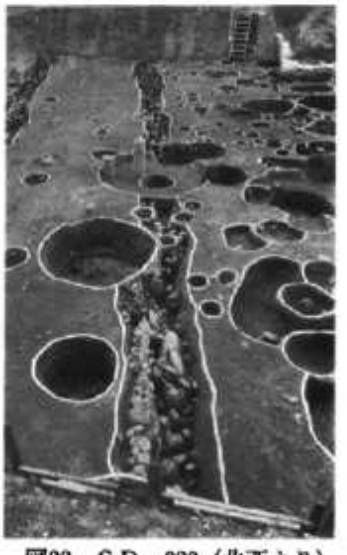


図33　ＳＤ－020（北西より）

図34　ＳＤ－020裏込め（南西より）

図35　ＳＤ－020裏込め（北西より）

れぞれＮ－64°－Ｗ（ＳＤ－020）・Ｎ－65°－Ｗ（ＳＤ－030）を測かり、ともに中央に横板と杭で幅約60cm・深さ50cm程の土留めの痕跡を残している。一部は改修後、石組みがなされ（図31・34・35）ており、側溝内の多数の礫は本来は図の様に裏込めとして整然と並べられていたものと考えられる。この２つの側溝間で4.8mを測る。時期は15世紀前半～中頃。

第２面とＳＤ－052（図11・19）　第１面と同じく掘り過ぎのため面的には北西側が、SD－052は大半がＳＤ－020に切られ東半分が残るのみである。残存面と土層観察より、標高4.0～4.5m間に路面が確認される。南北両端の比高で南東側が30cm程高く、面全体が側溝側に３～５°傾いている。居住面は若干高い。時期は15世紀初頭～前半。

図36　ＳＤ－056新段階（北西より）

第２～３面間とＳＤ－056（図12・20）　第3面検出途中で側溝の掘り込み面を確認したもので、面が残るのは南西部のみである。路面は標高 3.7～4.4m間に確認され、側溝側に３～７°傾く。居住面は40cm程高い。ＳＤ－056は方位をＮ－63.5°－Ｗにとり、土留板と杭列で幅40～50cm・深さ60cm程の流路をつくる新段階と、同じく土留板で幅1.4～1.5m・深さ90cm程をとる古段階とに分けられる。

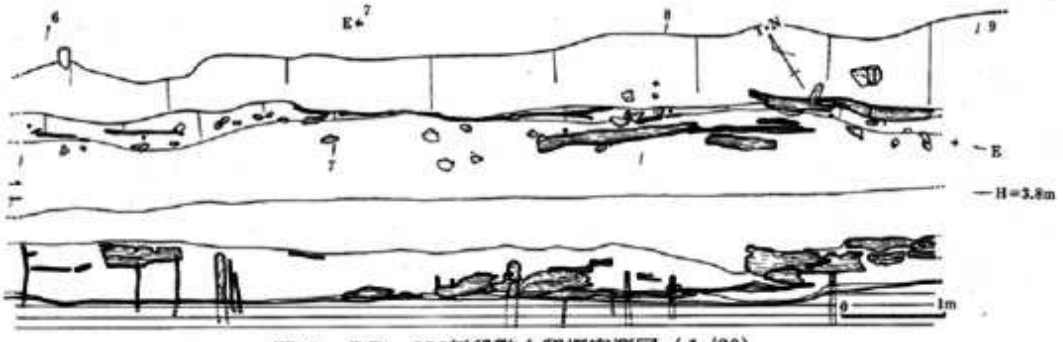


図37　ＳＤ－056新段階土留板実測図（1/80）

第３面とＳＤ－074(図13･21)　標高3.3～3.9m間に確認される。最下面の一部に玉砂利と貝殻で舗装がなされている。南東側で7°程傾いているが、徐々に地上げされ、最終的にはほぼ水平に整地されている。側溝ＳＤ－074は東側に幅1.8～2.8m・深さ40cmの、下面の溝(SD－127・128)を軽く改修した程度のものである。方位はＮ－67°－Ｗをとる。路面全体が西に傾いており、西側の側溝が完全にSD－056に切られ消滅している可能性も考えられる。時期は14世紀中頃～末。

第４面とＳＤ－082・127・128

(図14・22)

標高3.1～3.8m間に存する。２本の側溝にはさまれ、最下面で道路幅3.6～4.6mを測る。下面のＳＫ 101が埋まり切れておらず窪地となって残っており、最上面でようやく整地される。このためか、南北方向で中央部分が20～40cm程低くなっている。西側の側溝ＳＤ－082は方位をＮ－64°－Ｗにとり、横板と杭により２段の階段状の土留がなされる新段階と、幅 2.5～

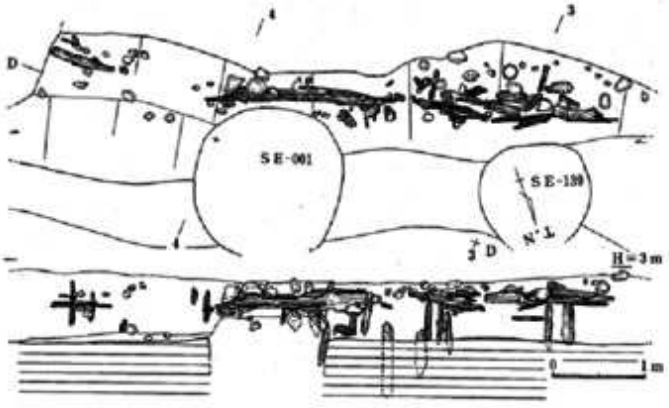


図38　ＳＤ－082土留板実測図（1/80）

図39　ＳＤ－082土留板列（北東より）

図40　ＳＤ－082土留板列（東より）

2.8m・深さ１m程の素掘りの古段階とに分けられる。東側溝はＳＤ－082と同方位をとり、陸橋部をはさんでＳＤ127と128に分かれる。居住区は最下面で10～30cm程、最上面で40cm程高くなる。時期は14世紀前半～中頃。

第５面とＳＤ－109・135(図15･23)　掘り過ぎたため路面下の遺構まで検出してしまったが、土層観察より、標高3.1～3.5m間で確認される。下面が、一部焼土層を整地しての最初の道路面となる。２本の側溝にはさまれ、最下面で幅3.0～4.5mを測る。ＳＤ－109は方位をＮ－60°－Ｗにとり、幅3.2～4.2・深さ1.5mを測る。ＳＤ－135はこれより小さく幅2.7～2.0m・深さ90cm

図41　ＳＤ－109内杭列（南東より）

図42　ＳＤ－109（南東より）

程を測る。居住区は最下面でほぼ平行であるが、最上面で10～30cm程高くなる。時期は13世紀末・14世紀初頭～前半。

②　道路下の溝　道路直下と包含層４層上面・包含層６層及び基盤層上面の３面にわたって遺構を検出している。

道路下５面とＳＤ－106(図15・23)　11基の土壙(ＳＫ101～105・107・108・110・113・125

図43　ＳＤ－119内人骨(頭蓋骨)（南東より）

図44　人骨近景（南東より）

・126)と溝１条(ＳＤ－106)を検出している。大部分が13世紀後半～13世紀末・14世紀初頭の時期で、上面を一部焼土で覆われ廃絶されている。道路への転換はこの直後になされている。ＳＤ－106は方位をＮ－68°－Ｗにとる。

道路下６面とＳＤ－119(図16・24)　標高2.5～2.8mの暗褐～黒褐色砂質土上面で11世紀～13世紀後半にかけての遺構を検出している。ＳＤ－119は大半をＳＤ－109に切られているが、幅２ｍ・深さ1.4m程を測る。土壙墓を破壊したのか、野晒が流れ込んだのか、頭蓋骨を３個体検出している(図43・44)。方位はＮ－66°－Ｗをとる。時期は13世紀初頭～後半。

道路下７面とＳＤ－120(古)・(新)　標高2.3～2.4mの黄色砂・基盤層上で11世紀～13世紀初頭の遺構を検出している。ＳＤ－120は新・古の２時期にわかれ(新)はＮ－65°－Ｗに方位をとり、時期は12世紀末～13世紀初頭、(古)はＮ－69°－Ｗで時期は12世紀中頃～末。構造物の影響

か、ともにC－6グリッドで西に1m程屈曲する。

③　井戸　井戸は9基確認している。径2～4m前後の円形の掘方に50～80cm程の木桶を井筒として据えたものである。時代別では、平安時代でSE131・132・133・140の4基である。

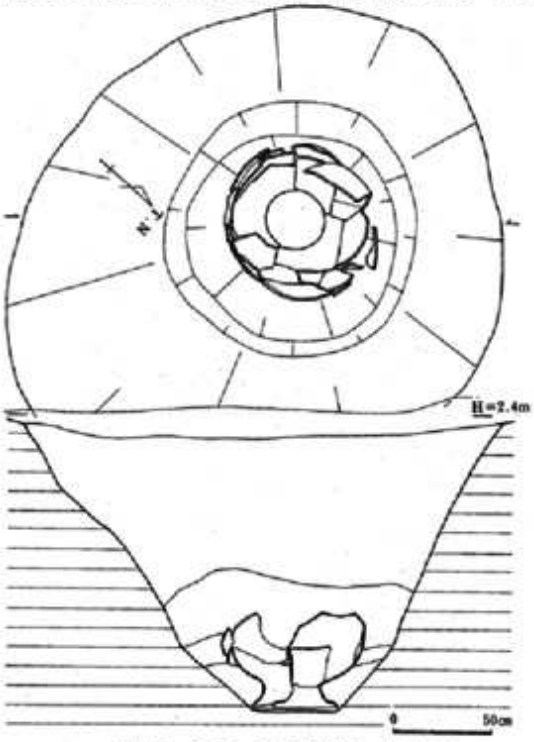


図45　SE－140実測図（1/40）

図46　SE－140（南西より）

溝SD120(古)の右岸に集中し、西に3基東に1基分布する。井底の標高は0.82～1.1mを測る。131と132はSD120(古)と直交する線上で並列し、また131と140はSD120(古)にほぼ平行して13.7m程の間隔をとる。これは一戸の住居単位を示している可能性が考えられる。SE140(図45・46)は甕枠の井戸で、上端径2.46m・下端径2.1m・深さ1.2mの掘方に、底を打ち欠いた胴径70cmの須恵器系の甕を倒置して井筒としている。時期は10世紀中頃～11世紀初頭。

鎌倉時代はSE075・111の2基で、溝SD109をはさんでこれと直交する線上の対称する位置に有る。溝中心からそれぞれ5m前後の間隔をとる。井底の標高はそれぞれ1.1・0.48mを測る。SE075(図49～51)は桶枠と思われる井戸で、径70cm程の井筒の底から、投げ棄てられた状態で土師器小皿を45枚、坏を20枚検出している。皿は口径7.2～8.8・器高1.2～1.5cmを測る。時期は13世紀後半～末。

室町時代はSE047・057・060の3基で道路南側、B～D－8～9グリッドあたりの居住区に集中する。SE060・047は溝から4～6m程奥まっており前代と同様の有り方を示しているが、SE057はほとんど通りに面している。SE057(図47・48)はこれら桶枠井戸の構造の典型的な例で、上端径3.8m・下端径2.0m・深さ1.5m程の円形の掘方に、さらに桶が1個収まるだけの穴を掘り径1m程の木桶を井筒として据えたものである。桶の内側に接して長さ45cm程の板杭を差し固定している。おそらく底を抜いた桶を数段積み重ねてあったと考えられるが、木質の腐朽が著しく、最下段が残るのみである。

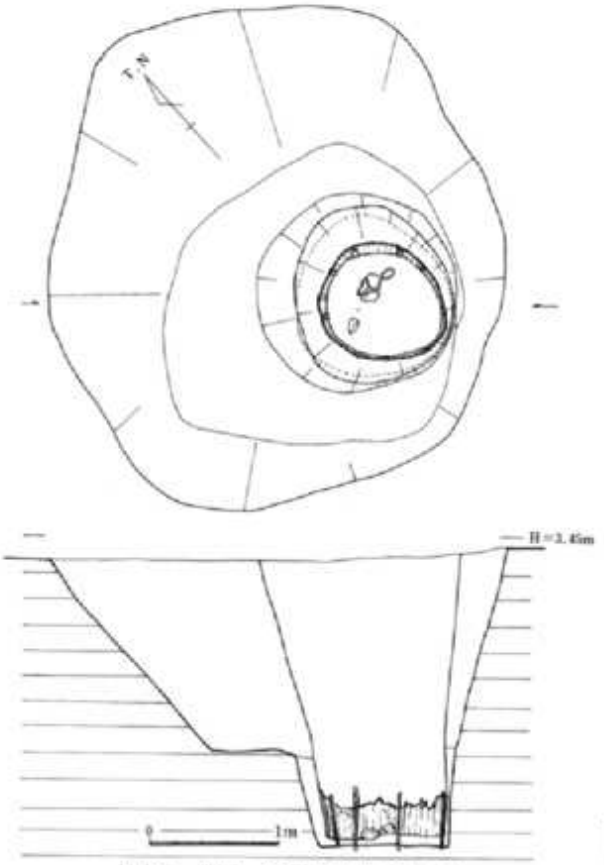


図47　ＳＥ－057実測図（1/60）

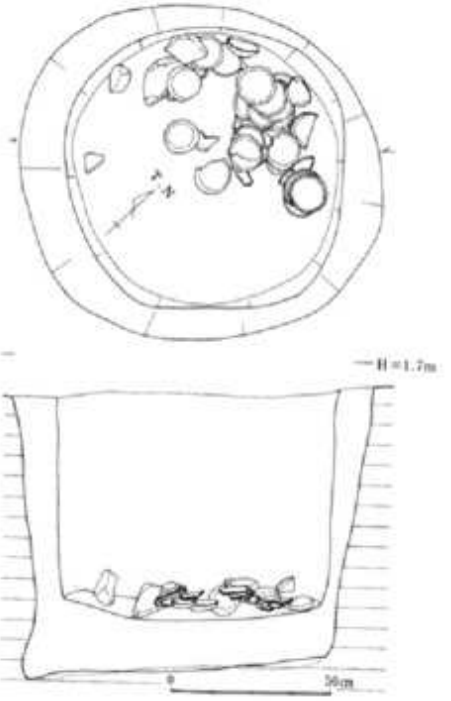


図49　ＳＥ－075井筒内実測図（1/25）

図48　ＳＥ－057（北東より）

図50　ＳＥ－075（南東より）

図51　ＳＥ－075井筒内（南東より）

④　土壙

土壙は平安期が16基、鎌倉期が26基、室町期で48基検出しており、13世紀後半以降室町期にかけて盛期を迎えている。ほとんどが廃棄物処理用と思われ、遺物の出土状況も小片がばらついて散在しているものが大多数で、ＳＫ－029(図55・56)の状況が代表的な有り方である。

一括投棄されたものは少ないが、ＳＫ－085(図52・53・54)はその希少な例である。Ａ～Ｂ－６グリッドに存し、長4.21×幅2.85×深0.57ｍを測かる。内部からは多量の白磁碗と四耳壺、同安窯系青磁碗、茶釉四耳壺、捏鉢等の中国産陶磁器が出土している。白磁碗の半数程が火熱を受けており、火災等で焼失したものを投棄した様である。他に、人為的に折断された径 8.5㎝の秋草双鳥文の和鏡・白色ガラス製の碧状装飾品・刀子・成人下顎骨が出土しており、掘削時に墓を攪乱している可能性がある。時期は12世紀後半～末。

ＳＫ－059(図57・58・59)はＡ－５グリッドに存し、長2.05×幅1.07×深0.33ｍを測かる。内部には炭・灰に混じって多量の土師皿・坏と鳥・魚骨が投棄されている。

図52　ＳＫ－085（南西より）

図53　ＳＫ－085（北東より）

土師皿・坏はすべて破砕され小片となっているため個体数の同定が難かしいが、底部片の外周度数の総計を360°で割ったところ皿105±７個体、坏102±8個体とほぼ同数で 100組前

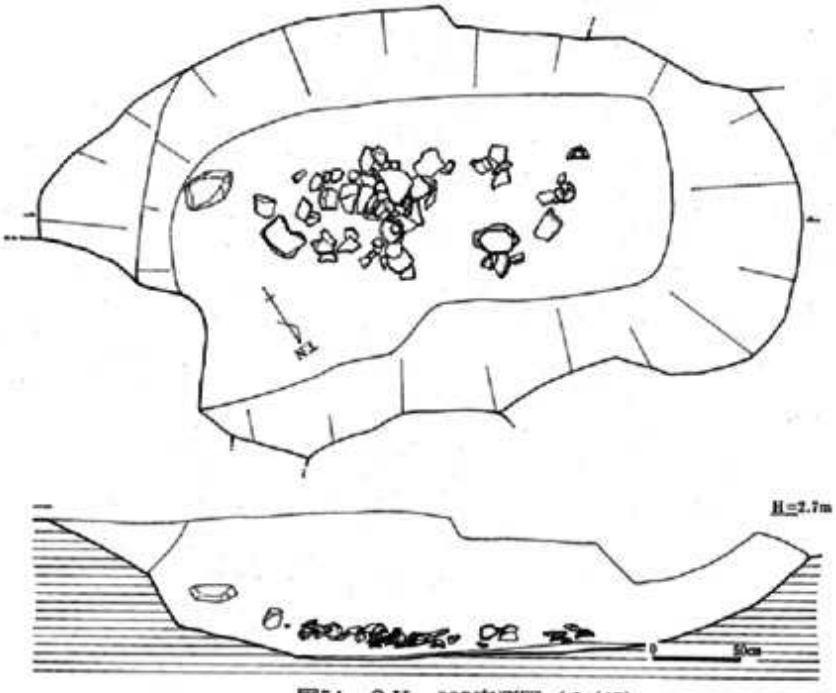


図54　ＳＫ－085実測図（1/45）

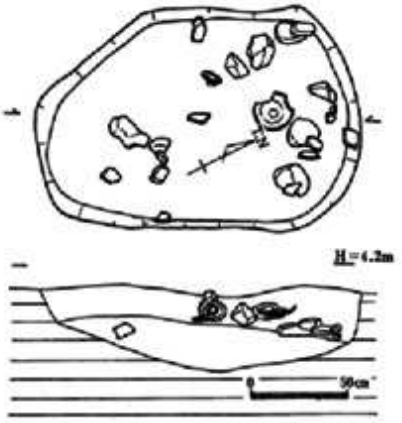


図55　ＳＫ－029実測図（1/40）

図56　ＳＫ－029（北より）

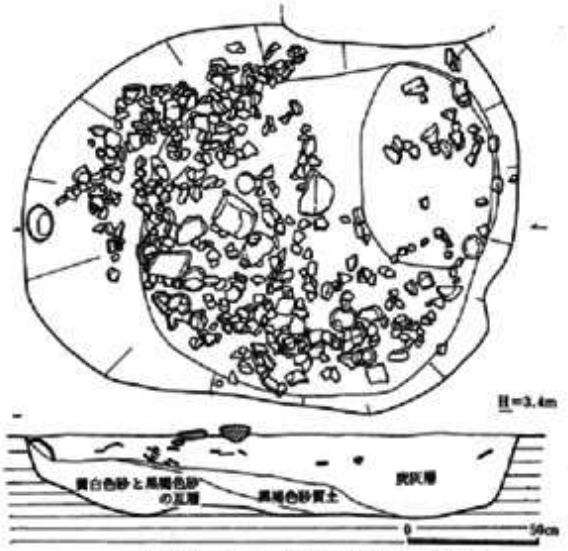


図57　ＳＫ－059実測図（1/30）

図58　ＳＫ－059（東より）

後が使用されている。鳥・魚骨は5尾分の真鯛と多数の小魚・少量の鳥管骨で、一部火熱を受けており、調理され食膳に供された様である。 100人前後の慶弔事の食膳に供された鯛や鳥の残滓・酒食に使用した坏・皿を叩き割り、一括して廃棄処理したものと思わる。文字通り「宴のあと」で、中世博多商人達の嬌声が聞こえてきそうである。時期は土師器より、13世紀末～14世紀中頃の間と思われる。

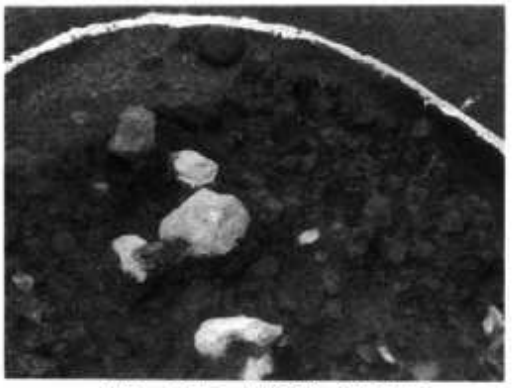


図59　ＳＫ－059近影（東より）

（3）近世の遺構

9基の井戸と4基の土壙を検出している。井戸は桶枠（ＳＥ－016・019・022・024）と瓦枠（ＳＥ－001・023・081・097・141）が有り、前者は17世紀代を、後者は18・19世紀代を中心としている。遺構はほとんど西半部の8ｍ程のベルト内に集中しており、5.4～6.8m程の間隔で、おおよそ4つのブロックに分けられ、これは6ｍ前後の間口で横長の4戸分の区画を示しているものと考えられる。

当該地は旧小山町・桶屋町に該当し、慶応2（1860）年の「博多店運上帳」によれば、蓮根野菜・乾物問屋、辛子・油屋、桶屋、酒造、旅人宿等の商家が軒を並べていた様である。中でも油・辛子油製造の油屋次平は桶屋町内一の豪家であり、当家は近年まで飯尾家として調査区内に現存していた。現在、19世紀中頃の古建築として西区徳永の「福岡歴史の町」に移築保存されている。飯尾家には慶応元（1865）年の家相図が伝えられており、調査区内の遺構と重ねたものが図60である。間口 5.9m奥行11.8mの主屋を中心に、22.7m×24.8mの敷地内に井戸は一ヶ所でこれが、南に1.6m程ずれるがＳＥ－097に相当すると思われる。主屋と倉庫下に19世紀代に廃棄された井戸001・022・023があり、現地調査の結果だされた19世紀中頃建築という時期とも符合し、19世紀中頃に4戸分を解体してならすか改築するかして建築された様である。ＳＥ－139・141・142は近代以降、板場・粉小屋・納屋・倉庫を手離なしたため、新たに掘削されたものと思われる。

尚、飯尾家に関する詳報は『博多遺跡群築港線（福岡市埋蔵文化財報告184集 1988年）』に記載されているのでこれを参照されたい。

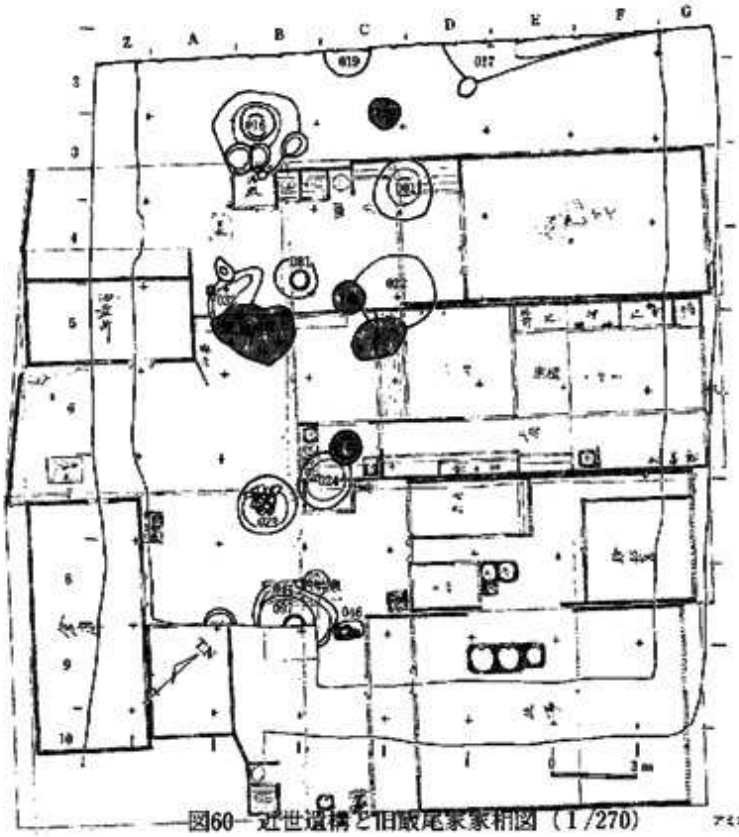


図60－近世遺構と旧飯尾家家相図（1/270）　アミカケは近・現代

Ⅲ．まとめ

古墳～奈良時代　包含層及び平安・中世の遺構内より多くの遺物が出土しているが、明確な遺構は７世紀後半の竪穴住居と思われるＳＣ－123、８世紀中頃の埋甕ＳＸ－100、８世紀後半の廃棄物処理用の土壙ＳＫ－094・099の４基のみである。

平安～中世　平安期は土壙16基・井戸４基・溝２条（ＳＤ－120(古)・ＳＤ－098）を検出している。鎌倉期は土壙26基・井戸２基・集石３ケ所・溝５条と道路を検出している。このうち23基が13世紀後半以降のものであり、元寇以降急激に発展した事を示している。道路ＳＦ－049は13世紀末～14世紀初頭の間の、遺構面の焼失後に設けられており、文永11(1274)年の文永の役・元応２(1320)年博多炎上のいずれかを契機としたものであろう。町割の方向は側溝の主軸で見ると(図61)Ｎ－60°～67°－Ｗで、現街区より西へ13～20°傾いており、12世紀中頃～後半以降の町割をそのまま踏襲している様である。建久６(1199)年創建といわれる聖福寺伽藍の主軸もＮ－36～37°－Ｅで、これにほぼ直交する。他に博多26次、築港線1区でこの方向に近い溝が検出されている(図62)。博多の、平安後期から14世紀前半代の東西南北方向の町割と16世紀末の現街区に近い町割との間隙を埋めるもので、当該区では平安期末には成立している。室町期は土壙48基・井戸３基・集石２ケ所と、前代以降の道路面と側溝８条を検出している。包含層の上半を欠失しているため、実質はこれに倍するものと考えられる。ＳＦ－049も15世紀中頃までであるが、土層観察により、天正５(1687)年の太閤町割で廃絶されるまでの存在が確かめられている。

近世　土壙４基・井戸８基を検出。６ｍ前後の間隔で４つのブロックに分かれており、４戸分の区画が想定される。19世紀代に井戸１基（ＳＥ－097）以外全廃されており、この４区画分をならすか改築を加えて飯尾家が建造されたと考えられる。

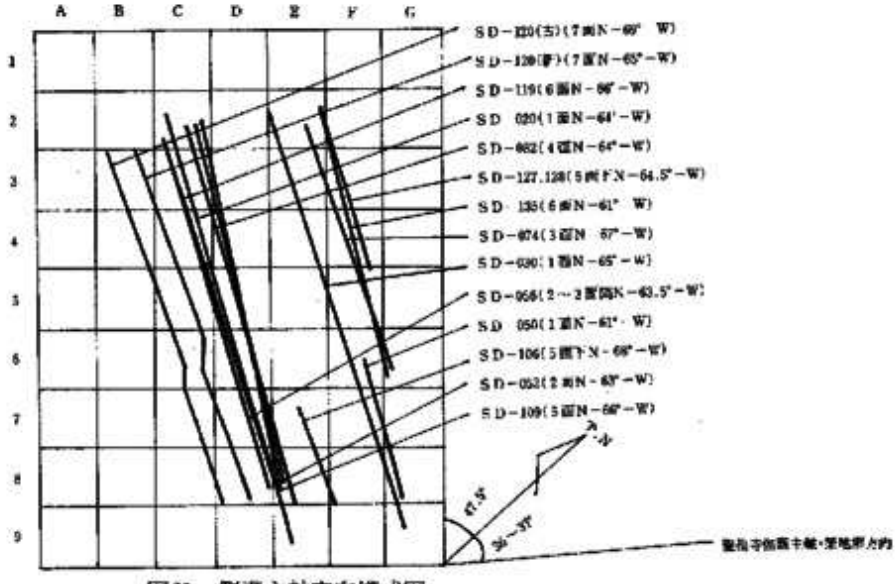


図61　側溝主軸方向模式図

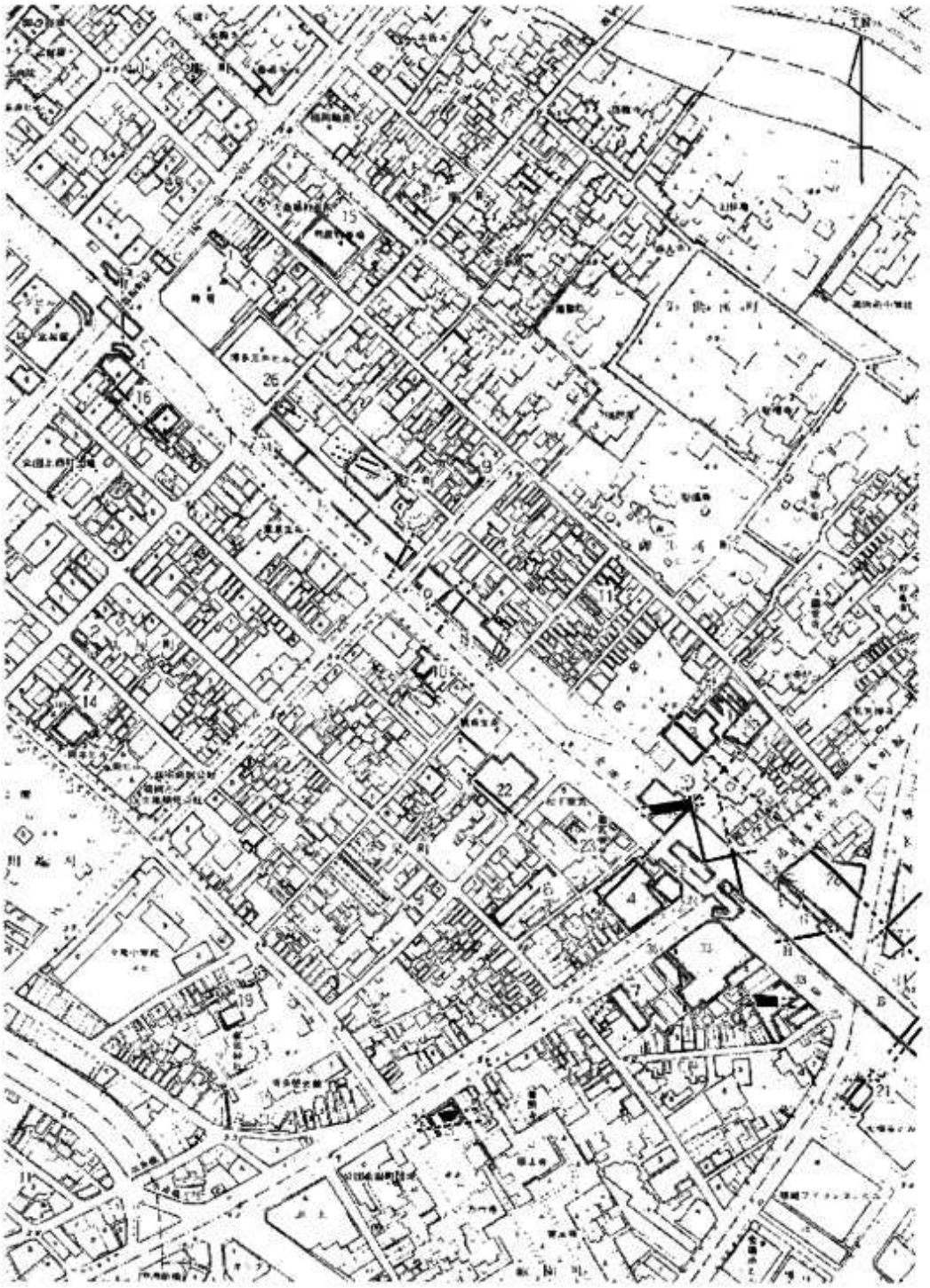


図62　各調査区溝方向概念図（1/5000）

(註) ●時期は土師器(大宰府編年)を中心に他の陶磁器・切り合い関係で決定し、道路・側溝以外は主に廃棄時期を示している。
●規模で、井戸は上段に井筒を下段に掘方を示し、溝は上端幅×下端幅×深を示している。
●土師器法量は口縁全周の2分の1以上残存するもののみ示した。

表2　遺構一覧表

遺構No.	グリット	検出面	時期(C＝世紀)	規模 長辺×短辺×深(底面標高)m	出土遺物	土師器・皿・坏法量(口径×高)cm
SF-049 1面			15C前半～中頃		白磁(合子)　青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ類,小鉢)　中国産陶器(甕)　国産陶器(備前他一甕)　瓦質土器(火舎,擂鉢)　土師器(皿,坏)　瓦　金属器(茶筋状銅製品)　骨角製品　自然遺物(骨)	
SF-049 2面			15C初～前半		白磁(碗Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ類・ロハゲ・枢府系・徳化窯,平底皿Ⅲ類,ロハゲ皿,壺,鉄絵壺)青白磁(枢府系高台付皿)　青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅲ・Ⅴ類・小碗,小鉢,香炉,盤,皿,同安碗Ⅱ類,皿,高麗李朝雲磁碗・象嵌碗)　天目碗　磁州窯鉄絵瓶草釉瓶　中国産陶器(盤,甕,瓶,壺)　国産陶器(備前・常滑・瀬戸他一甕,擂鉢)天目碗　須恵器(甕,坏,高台坏,坏蓋,壺)　瓦器(碗)　瓦質土器(火舎,擂鉢)　東播系捏鉢　土師器(皿,坏,甕,鍋)瓦　土製品(瓦玉(瓦質・陶器・白磁))　石製品(砥石,石球,臼,石鍋,滑石製紡錘車)　金属器(鉄釘,銭)　木器　ガラス(屑,容器片)　墨書陶磁器　自然遺物(骨,貝,種)	
SF-049 2・3面間			14C末～15C初		白磁(碗Ⅲ～Ⅵ類・印花・徳化窯,高台付皿Ⅱ類・平底皿Ⅵ類・ロハゲ皿・灯明皿,枢府高台坏,壺)　青白磁(碗)　青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅲ・Ⅴ類,小鉢,盤,皿,同安碗Ⅰ・Ⅱ類・皿,李朝鉢,象嵌碗)　天目碗　中国産陶器(甕,盤)　国産陶器(備前・瀬戸他一皿,瓶,甕,皿,天目碗)　須恵器(坏,甕,坏蓋)　瓦器(碗)　瓦質土器(擂鉢,火舎)　土師器(皿,坏,鍋)　瓦　上製品(紡錘車,瓦玉(瓦・瓦質・白磁・青磁))　石製品(石球)　金属器(鉄釘,釣針,刀子,銭)　木器　墨書陶磁器　自然遺物(骨,貝)	
SF-049 3面			14C中頃～末		白磁(碗Ⅱ～Ⅵ類・ロハゲ・枢府系・徳化窯,高台付皿Ⅰ・Ⅱ類・平底皿Ⅱ～Ⅵ類・ロハゲ皿,壺,壺蓋)　青白磁(ロハゲ碗・枢府系碗,合子,水注,香炉,梅瓶,ロハゲ小鉢)　青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅵ類・小碗,皿,盤,小鉢,壺,香炉,酒会壺,同安碗Ⅰ・Ⅱ類,皿,越磁壺,高麗李朝碗,瓶,象嵌碗)　増鳴釉瓶,天目碗　中国産陶器(甕,壺,瓶,盤,小碗,茶入,擂鉢,緑釉盤,磁州窯鉄絵瓶草釉瓶)　国産陶器(瀬戸・備前・常滑他一甕,擂鉢,卸皿,壺,天目碗)須恵器(坏,高台坏,坏蓋,甕)　瓦器(碗)　瓦質土器(擂鉢,捏鉢,火舎,壺)　土師器(皿,坏,高坏,壺,鉢蓋,甑)　瓦　土製品(管状土錘,瓦玉(瓦・陶器・天目・瓦質・青磁・白磁))石製品(砥石,滑石製呪符,石鍋,石臼,石球,石硯,浮子)　金属器(鉄釘,包丁,斧,刀子,釣針,取手金具,銭)　木器(漆器椀)　ガラス(屑)　墨書陶磁器　自然遺物(骨,貝)	皿7.6～8.7×1.2～1.4 坏11.8～13.1×2.2～2.9
SF-049 4面			14C前半～中頃		白磁(碗Ⅲ～Ⅷ類・ロハゲ,平底皿Ⅱ・Ⅲ類・ロハゲ皿・毛彫り高台付皿)　青白磁(碗,合子,梅瓶,枢府系高台付鉢)　青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類・小碗,小鉢,瓶,皿,同安碗Ⅰ・Ⅱ類,高麗小碗・象嵌碗)　天目碗　中国産陶器(甕,捏鉢,瓶,盤,壺)　国産陶器(瀬戸・備前・常滑他一盤,壺,瓶,皿)近世陶磁　須恵器(壺,甕,皿,坏,坏蓋,高台坏)　瓦器(碗)　瓦質土器(擂鉢,捏鉢)　東播系捏鉢　土師器(皿,坏,鍋)　瓦　土製品(瓦玉(青磁・白磁・陶器・土師器・瓦質・瓦))　石製品(石球,石鍋,砥石,五輪水輪,石硯)　金属器(鉄釘,鉄鏃,スラグ,銭)　木器　自然遺物(骨,貝)	坏12.5×3.1
SF-049 5面			13C末・14C初～14C前半		白磁(碗Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅸ類・ロハゲ・小碗,高台付皿Ⅰ・Ⅱ類,平底皿Ⅲ・Ⅳ類,ロハゲ皿,壺,合子)　青白磁(碗,皿,壺,鉢)　青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類,小碗,小鉢,高麗碗)　天目碗　中国産陶器(緑釉盤,盤,壺,甕,瓶,行平)国産陶器(瀬戸・常滑他一甕,擂鉢,壺,緑釉碗)　須恵器(甕,高台坏,坏,坏蓋,鉢)　瓦器・黒色土器A・B類(碗,皿,鉢)　瓦質土器(擂鉢,捏鉢,火舎)　東播系捏鉢　土師器(皿,坏,高台坏,鍋)　瓦　土製品(瓦玉(白磁・青磁・瓦・瓦質・土師質・陶器))　石製品(石鍋,砥石)　金属器(鉄釘,刀子,銭)木器　ガラス(玉)　自然遺物(骨,貝,種)	皿8.3×1.4 坏13.8×2.7
SD-020	C-2～E-10	1	15C前半～中頃	1.60×1.13×0.85(3.35)	白磁(碗0・Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ類・ロハゲ,高台付皿Ⅱ類,平底皿Ⅵ・Ⅷ類,枢府系皿,ロハゲ皿・灯明皿,小壺,八角小坏,壺,鉄絵壺)　青白磁(碗,枢府系小碗,合子,小壺,皿,梅瓶,壺)　青磁(壺,瓶,龍泉碗Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類・小碗,皿,小鉢,香炉,盤,瓶,同安碗Ⅰ・Ⅱ類,高麗李朝象嵌碗・皿・壺・瓶,安南碗)　天目碗　明青花碗	皿6.6～9.4×1.1～1.9 坏7.7～12.1×2.5～3.2

遺構 No.	グリット	検出面	時期(C＝世紀)	規模 長辺×短辺×深(底面標高) m	出土遺物	土師器・皿・坏法量 (口径×高)cm
SD-020					中国産陶器(甕,壺,瓶,壺,鉢,擂鉢) 福州窯鉄釉翡翠釉瓶 国産陶器(備前・常滑,瀬戸他一甕,擂鉢,壺,卸皿,香炉,皿) 近世陶磁(伊万里染付) 須恵器(甕,坏蓋,高台坏・坏) 瓦器(鍋) 瓦質土器(擂鉢,火舎,甕) 東播系擂鉢 土師器(皿,坏,鍋,支脚,鉢) 瓦(三巴文軒丸瓦,他) 土製品(吹子羽口,土師器小坏,瓦玉(青磁・白磁・天目・瓦・陶器・瓦質土器・土師器)管状土錘,瓦質仏像・土師質仏像) 石製品(石球,石臼,砥石,石鍋,浮子,砥石,鞘状滑石製品,瑪瑙製小玉,滑石製双胴小壺,蓋) 金属器(釣針,鉄釘,釘状金具,金錠,銭(至道元宝,元豊通宝,紹定通宝 他) 骨角器(刀柄頭装飾) 木器(漆器椀) ガラス(容器片,層) 自然遺物(骨,貝)	皿6.6~9.4×1.1~1.9 坏7.7~12.1×2.5~3.2
SD-030	D-2~G-9	1	15C前半~中頃	1.62×1.04×0.74(3.44)	白磁(碗II・IV・VI類・ロハゲ,高台付皿II類・平底皿III・VI類・ロハゲ皿・灯明皿,小壺,合子,鉄釉壺) 青白磁(合子,枢府系ロハゲ碗・梅目文碗,梅瓶) 青磁(龍泉碗I－V類,小碗,高台付皿・平底皿,壺,鉢,盤,同安碗II類,皿,越磁碗,李朝象嵌碗・壺) 天目碗 明青花(碗,瓶) 瑠璃釉瓶 中国産陶器(盤,壺,甕,瓶,茶入,皿,擂鉢,擂鉢,緑釉碗) 国産陶器(瀬戸・備前・常滑 他一甕,擂鉢,鉢,瓶,卸皿) 須恵器(坏,高台坏,坏蓋,甕,壺) 瓦器(鍋) 瓦質土器(擂鉢,擂鉢,火舎) 東播系擂鉢 土師器(皿,坏,鍋,擂鉢) 瓦(塼) 土製品(瓦玉(陶磁器 他),土師器小坏・小壺) 石製品(石球,石鍋,砥石,石硯) 金属器(釣針,鉄釘,刀子,銭(永楽通宝 他)) 自然遺物(骨)	皿7.2~8.2×1.4~1.7 坏12.6~13.4×2.6~3.1
SD-050	F-6~F-8	1	16C初	0.64+α×0.51+α×0.37(3.69)	白磁(皿) 青白磁(枢府系碗) 青磁(龍泉碗I・II類・ロハゲ) 中国産陶器 国産陶器 須恵器(甕) 瓦質土器 土師器(皿,坏,鍋) 金属器(鉄釘) 自然遺物(骨)	
SD-052	C-2~E-8	049・2	15C初~前半	0.77+α×0.35+α×0.74(3.35)	白磁(碗II・III・IV・VI類,ロハゲ皿・灯明皿,枢府系白磁皿,八角小坏) 青白磁(梅瓶) 青磁(龍泉碗I・IV類,皿V類,盤,香炉,小鉢,越磁碗) 天目碗 中国産陶器(盤,壺,壺) 国産陶器(備前擂鉢,瀬戸天目碗) 須恵器(甕,高台坏) 瓦質土器(火舎,擂鉢,擂鉢) 土師器(皿,鍋) 瓦 石製品(砥石) 金属器(鉄釘,緑金具,銭) 自然遺物(骨)	皿8.3~8.8×1.5~1.9
SD-056	C-2~D-9	049・2~3	14C末~15C初	新 0.90×0.63×1.12(2.93) 古 2.56×1.35×1.25(2.80)	白磁(碗II・III・IV・VI類・ロハゲ,高台付皿II類・平底皿II・III・IV・VI類・枢府系皿・ロハゲ皿,壺,合子,小壺,水注,香炉) 青白磁(碗,皿,合子,小壺,梅瓶,枢府系高台皿,ロハゲ碗,瓶,蓋) 青磁(龍泉碗I・II・III・V類,小碗,小鉢III類,皿,壺,鉢,盤,瓶,同安碗I・II類,越磁碗,皿,壺,李朝碗,水注,温湯釉盤) 国産陶器(備前・常滑・瀬戸他一甕,擂鉢,壺,卸皿,山茶碗) 近世陶磁(伊万里染付碗) 須恵器(甕,坏,高台坏,坏蓋,壺,高坏) 瓦器(鍋) 瓦質土器(擂鉢,擂鉢,火舎) 土師器(皿,坏,鍋,鍋,支脚) 瓦 土製品(吹子羽口,瓦玉(陶磁器 他),管状土錘,土師器脚) 石製品(石球,石鍋,砥石,叩石) 金属器(鉄釘,釣針,毛抜,刀子,銭(嘉祐元宝・聖宋元宝・政和通宝・永楽通宝・崇寧通宝 他)) 骨角器(鹿か弊) 木器(板草履,下駄歯,漆器椀,折敷) ガラス(玉,模倣) 墨書陶磁器 自然遺物(骨,貝,曹木)	皿8.4~9.8×1.1~2.1 坏10.6~13.0×2.3~2.9
SD-074	F-6~E-9	049・3	14C中頃~末	3.30×1.21×0.60(3.20)	白磁(碗II~IV・IX類・ロハゲ, ロハゲ皿・灯明皿,合子,壺) 青白磁(碗,合子,梅瓶) 青磁(龍泉碗II~IV類,皿,小鉢,同安皿,高麗李朝碗) 天目碗 中国産陶器(瓶,水注,壺,擂鉢,盤) 国産陶器(備前・瀬戸 他一甕,緑釉碗) 須恵器(坏,壺,甕) 瓦器(鍋) 瓦質土器(火舎,擂鉢,擂鉢) 東播系擂鉢 土師器(皿,坏,鍋,擂鉢) 瓦 土製品(管状土錘,瓦玉(瓦・瓦質)) 石製品(石球,砥石) 金属器(鉄釘,銭(永楽通宝 他)) 骨角器(弊) 木器(漆器椀) 自然遺物(骨)	皿7.2~8.3×1.0~1.6 坏11.6~15.1×2.2~3.2
SD-078	A-6~A-7	3	13C後半	0.42×0.24×0.37(2.62)	白磁(碗II・IV~VI類,平底皿II・III・V類,高台付皿II類,ロハゲ皿,壺) 青磁(龍泉碗II・III類,小鉢,同安碗II類) 中国産陶器(盤,鉢,甕,瓶) 国産陶器(備前・常滑 他一甕) 須恵器(坏,高台坏,坏蓋,甕) 瓦器・黒色土器A類(鍋) 瓦質土器(擂鉢,擂鉢,火舎) 東播系擂鉢 土師器(皿・坏,焼塩壺,瓶,鍋,鍋) 弥生(中期前半甕) 瓦 土製品(管状土錘,瓦玉(陶器,瓦質)) 石製品(叩石,砥石,石錘) 金属器(鉄釘,刀子,銭,スラグ)	皿7.4~9.0×1.0~1.8 坏11.8~12.2×1.6~3.0
SD-082	C-2~E-9	049・4	14C前半~中頃	新 1.81×0.81×0.90(2.22) 古 3.67×2.41×1.26(2.02)	白磁(碗O・II・III・VI類・ロハゲ,平底皿II・III・IV・V・VI類・ロハゲ皿・灯明皿・枢府系皿・小皿,壺,合子,水注,小壺,蓋) 青白磁(合子,小壺,梅瓶,碗,皿,ロハゲ碗) 青磁(龍泉碗I・II・III類・小碗,皿,小壺,香炉,小鉢,壺,同安碗I・II・III類,皿I・II類,高麗李朝象嵌碗,越磁碗) 天目碗 中国産陶器(緑釉盤,褐釉水注,壺,盤,瓶,鉢,皿,甕,擂鉢) 国産陶器(瀬戸・常滑・備前 他一甕,擂鉢,卸皿,壺,緑釉碗,瓶)	皿6.6~9.0×1.0~1.5 坏10.8~16.0×2.0~3.0

遺構 No.	グリット	検出面	時期(C＝世紀)	規模 長辺×短辺×深(底面標高) m	出土遺物	土師器・皿・坏法量 (口径×高)cm
SD-082					近世陶磁(京焼系鉢・壺)　須恵器(坏,高台坏,坏蓋,高坏,甕,壺)　瓦器(椀)　瓦質土器(火舎,擂鉢,捏鉢)　東播系(捏鉢,擂鉢)　土師器(皿,坏,鍋,捏鉢,高坏,甕,高台坏)　瓦(博,巴文軒丸瓦当,均正唐草文軒平瓦当,草花文軒丸瓦当)　土製品(吹子羽口,管状土錘,有溝上錘,瓦玉(陶磁器 他))　瓦(古代瓦)　石製品(石臼,有溝石錘,砥石,叩石,石硯,滑石製薬,小玉)　金属器(鉄釘,刀子,金具,釣針,包丁,銭(大平通宝,祥符元宝,景祐元宝,元豊通宝,景定元宝,永乗通宝,紹聖元宝 他))　骨角器(笄,筵,未製品)　木器(板草履,箸,下駄歯,舟形,差歯下駄,折敷の底板,車,木簡,杵,枕,漆器椀)　ガラス(璃,装飾品,容器片,玉)　墨書陶磁器　自然遺物(骨,鯨ひげ歯,貝,種,香木)	皿6.6～9.0×1.0～1.5 坏10.8～16.0×2.0～3.0
SD-098	B 7～B-6	5	10C後半～11C初	0.75×0.57×0.33(2.48)	白磁(椀II類)　青磁　中国産陶器　須恵器(坏,蓋,甕)　黒色土器B類(椀)　土師器(皿,坏,甕)	
SD-106	E 7～8	049・5	13C後半～末・14C初	1.13×0.40×0.80(2.22)	白磁(椀III・VI類・ロハゲ,高台付皿II類・ロハゲ皿・皿,合子,壺蓋,水注)　青白磁(合子)　青磁(龍泉椀I・II・III類,鉢,盤,同安椀II類)　天目椀　中国産陶器(盤,壺,鉢,捏鉢)　国産陶器(瀬戸・常滑・備前 他一甕,擂鉢)　須恵器(坏,高台坏,甕,坏蓋)　瓦器(椀)　瓦質土器(捏鉢,擂鉢,鍋,火舎)　東播系捏鉢　土師器(皿,坏,鍋,竈)　瓦　土製品(管状土錘,瓦玉(白磁・陶器))　石製品(石鍋,石球,砥石)　金属器(鉄釘,釣針,銭)　竹角器(笄)　墨書陶磁器　自然遺物(骨)	皿7.6～8.1×1.1～1.6 坏11.5～12.5×2.2～3.0
SD-109	C 3～E-8	049・5	13C末・14C初～14C前半	4.23×1.60×1.64(1.46)	白磁(椀II～IV・VI・VIII類・ロハゲ,高台付皿II類・平底皿・VI・III類・ロハゲ皿,壺,水注,二重合子,小壺,茶入)　青白磁(合子,碗,ロハゲ小碗,梅瓶,小壺,皿)　青磁(龍泉椀I・II・III類,壺,香炉,同安椀I・II類,高麗李朝椀,越磁椀)　天目椀　明青花(椀,皿)　中国産陶器(甕,壺,盤,瓶,行平鉢,捏鉢,擂鉢)　国産陶器(常滑・瀬戸 他一甕,小口瓶,緑釉椀)　須恵器(甕,壺,高台坏,坏,坏蓋,高坏)　瓦器・黒色土器A・B類(椀)　瓦質土器(火舎,捏鉢)　東播系捏鉢　土師器(皿,坏,鍋,竈,高台坏,焼塩壺)　瓦(草花文軒丸瓦当)　土製品(管状土錘,瓦玉(青磁・白磁・陶器))　石製品(石硯,石臼,砥石,石鍋,叩石,石球,滑石製薬,有溝石錘)　金属器(鉄釘,金具,筒,銭(開元通宝・祥符通宝・景祐元宝・熙寧元宝・元豊通宝・元祐通宝・紹聖元宝・聖宋通宝・宣和通宝・淳熙元宝 他))　木器(下駄,板草履,箸,筒,枕,折敷,土製仏像雛型,舟型,下駄の歯,櫛,矢板,折敷の底板,桶の底板)　ガラス(玉)　墨書陶磁器　自然遺物(骨,香木)	坏11.8～13.3×2.4～3.3
SD-119	C-3～E-8	049・6	13C初～後半	3.45×0.83×1.72(1.36)	白磁(椀II～IV類,高台付皿II類・平底皿O～IV・VI類・ロハゲ皿,壺,合子,壺蓋)　青白磁(椀,皿,合子,袋物蓋,香炉蓋)　青磁(龍泉椀I・II類,平底皿I類・皿・ロハゲ皿,小鉢III類,同安椀I類・皿I・II類,高麗李朝椀,越磁椀)　天目椀　中国産陶器(壺,瓶,盤,蓋,鉢,捏鉢,水注,行平,甕,褐釉壺)　国産陶器(瀬戸 他一褐釉甕・緑釉椀,甕,壺)　近世陶磁(伊万里白磁小椀,染付椀)　須恵器(甕,坏,高台坏,高坏,坏蓋,壺)　瓦器・黒色土器A・B類(椀)　瓦質土器(捏鉢,鍋,擂鉢,高台付鉢)　東播系捏鉢　土師器(皿,坏,高台坏,甕,竈,高台付鉢,高坏,焼塩壺)　瓦　土製品(吹子羽口,支脚,管状土錘,瓦玉(青磁・白磁・瓦))　石製品(石鍋,砥石,叩石,浮子)　金属器(鉄釘,銭)　木器(櫛,箸,舟形)　自然遺物(骨,人骨)	皿8.2～9.1×0.9～1.5 坏12.8×2.6
SD-120(新)	B 3～D-8	049・7	12C後半～13C初	2.55＋α×0.45×1.20(1.70)	白磁(椀II・III・IV～VIII類,ロハゲ小碗,高台付皿I・II類・平底皿II・III類・ロハゲ皿,壺,水注,瓶,香炉,鉄絵壺)　青白磁(碗,合子,壺,水滴)　青磁(龍泉椀I・II類・平底皿,同安椀I・II類,皿,高麗椀,越磁椀)　天目椀　明青花椀　中国産陶器(鉢,壺,瓶,盤,瓮)　国産陶器(甕,緑釉椀)　近世陶磁(伊万里椀)　須恵器(甕,坏,高台坏,高坏)　瓦器(椀)　瓦質土器(擂鉢,捏鉢)　土師器(皿,坏,甕,高台坏,高坏,竈)　瓦(博,北方系軒平瓦当,草花文軒丸瓦当)　土製品(管状土錘,瓦玉(白磁・陶器))　石製品(石鍋,砥石,叩石,石球,石臼)　金属器(鉄釘,金具,銭(宋通元宝 他))　墨書陶磁器　自然遺物(骨)	皿8.3～8.8×1.2～1.6 坏14.8～15.2×2.7～3.2
SD-120(古)	B-3～D-8	049・7	12C中頃～後半	1.8＋α×0.36×1.30(1.60)	白磁(椀IV・V・VI類,高台付皿)　青磁(同安椀)　中国産陶器(盤,壺,甕)　国産陶器　近世陶磁(伊万里椀)　須恵器(甕,高台坏)　瓦器(椀)　瓦質土器(捏鉢)　土師器(皿,高台坏)　瓦	

遺構 No.	グリット	検出面	時期(C＝世紀)	規模 長辺×短辺×深(底面標高) m	出土遺物	土師器・皿・坏法量 (口径×高)cm
SD 128	F-4～3	049・5	14C前半～中頃	1.30×0.65×0.92 (2.40)	白磁(碗O・III・VI類, 小碗, 高台付皿・ロハゲ皿・灯明皿) 青白磁(小壺, 香炉) 青磁(龍泉碗II・III類・ロハゲ小碗, 壺) 天目碗 中国産陶器(甕, 壺, 瓶) 国産陶器(甕) 須恵器(甕, 高台坏, 坏蓋) 瓦器・黒色土器A類(碗) 瓦質土器(擂鉢, 捏鉢) 土師器(皿, 坏, 甕, 鍋) 瓦(草花文軒丸瓦当) 石製品(石鍋) 金属器(鉄釘, 刀子, 銭(皇宋元宝 他)) 自然遺物(骨)	皿7.8～8.7×1.7～1.9
SD-135	F 3～4	049・6	13C末, 14C初～14C前半	2.01×1.09×0.82(2.10)	白磁(碗III・VI類, ロハゲ皿) 青磁(龍泉碗I類) 中国産陶器(甕, 壺) 国産陶器 須恵器(坏, 高台坏, 甕) 瓦器・黒色土器A類(碗) 瓦質土器 土師器(皿, 坏, 鍋, 火舎) 瓦 金属器(鉄釘, 銭) 自然遺物(骨)	皿8.2～9.3×1.4～1.5
SE-001	C, D-3	1	19C前半	1.21×0.88×3.60(0.69) 2.14×1.93×2.77(1.47)	白磁(碗IV・VI類, 灯明皿・ロハゲ皿・高台付皿II類・平底皿II類, 水注) 青磁(龍泉碗I・II・V類, 輪花, 高台付皿, 壺, 盤, 李朝象嵌) 明青花(碗) 中国産陶器(甕, 盤, 壺) 国産陶器(甕, 灰釉陶) 近世陶磁器(伊万里染付碗, 壺, 皿) 須恵器(坏, 甕) 瓦質土器(火舎, 甕, 擂鉢, 捏鉢) 土師器(鍋, 火舎, 皿, 坏, 七輪・ナナ) 瓦(井戸枠) 土製品(瓦玉(陶器)) 石製品(石鍋, 砥石, 滑石製品) 金属器(鉄釘, 銭, 釣針) 自然遺物(骨)	
SK-002	F 3	1	15C末～16C初	2.81+α×2.29+α×1.38(3.75)	白磁(碗, 灯明皿・ロハゲ皿・枢府系皿) 青白磁(枢府系皿) 青磁(龍泉碗V・III類, 李朝象嵌碗) 天目碗 中国産陶器(甕, 壺) 国産陶器(甕) 須恵器(甕, 擂鉢) 瓦質土器(火舎, 擂鉢, 壺, 片口) 土師器(皿, 坏) 瓦 土製品(瓦玉(白磁・瓦)) 石製品(石鍋, 砥石, 磨石) 金属器(鉄釘, 銭) 自然遺物(骨)	皿7.1～8.4×1.5～1.8 坏12.1～12.3×2.5～3.1
SK-003	F 3	1	14C中頃～15C初	1.39×0.58+α×0.57(3.57)	白磁(碗II・IV類, 枢府系皿) 青磁(龍泉碗V類, 李朝象嵌碗) 中国産陶器(甕) 須恵器(甕) 瓦器(碗) 瓦質土器(擂鉢) 土師器(鍋, 高台付鉢, 皿) 金属器	皿7.8～8.6×1.2～1.5
SK 004	G-4	1	14C後半	1.15×0.76×0.34(5.88)	白磁(碗) 青白磁(合子) 青磁(龍泉碗IV・III類, 盤, 李朝象嵌皿) 中国産陶器(甕) 瓦質土器(甕) 土師器(鍋, 竈, 皿, 坏) 金属器(銭)	
SK-005	F-4	1	15C後半	1.40×0.89×0.37(3.78)	白磁(高台付皿) 青磁(龍泉碗V類, 李朝象嵌碗, 皿) 中国産陶器(盤) 土師器(鍋, 皿, 坏) 石製品(砥石) 金属器(銭(元豊通宝 他)) 自然遺物(骨)	
SK-006	F 4	1	14C末～15C中頃	1.70×0.56×0.30(3.84)	白磁(八角小坏) 青磁(碗, 龍泉碗III類) 中国産陶器(甕, 壺) 須恵器(甕) 土師器(鍋, 火舎, 皿, 坏) 金属器(銭) 骨角器(笄)	皿8.2×1.4
SK-007	G	1	14C後半	1.09+α×0.94+α×0.49(3.66)	白磁(碗, 皿, 小鉢) 青磁(碗, 皿) 青白磁(皿) 天目碗 中国産陶器(盤) 須恵器(坏, 壺, 甕) 瓦器(碗) 瓦質土器(擂鉢) 土師器(鍋, 高台付鉢, 皿, 坏) 瓦 金属器(鉄釘, 銭) 自然遺物(骨)	
SK-008	F-5～6	1	15C前半～中頃	2.30+α×1.24+α×0.57(3.50)	白磁(ロハゲ皿, 碗) 青白磁(壺) 青磁(龍泉碗V・II類, 香炉) 天目碗 中国産陶器(甕, 壺) 国産陶器 須恵器 瓦質土器(擂鉢, 捏鉢) 土師器(鍋, 皿, 坏) 石製品(石球, 印石) 金属器(鉄釘) 自然遺物(骨)	坏13.8×3.6
SK-009	A 5	1	14C中頃～15C	1.58×0.81+α×0.16(4.08)	青磁(龍泉碗IV類) 瓦質土器(火舎) 土師器(皿, 坏)	
SK-010	F 2	1	14C末～15C初	1.00×0.83×0.48(3.58)	白磁(碗IV類) 青磁(龍泉碗 I・III類) 中国産陶器(瓶, 甕) 瓦質土器(擂鉢, 捏鉢) 東播系捏鉢 土師器(鍋, 皿, 坏) 瓦 石製品(磨石) 金属器(鉄釘, 銭(開元通宝・熙寧元宝 他)) 自然遺物(骨)	
SK-011	F-2	1	14C末～15C初	1.39+α×0.81+α×0.40(3.65)	白磁(碗V類) 青磁(龍泉碗, 小鉢, 小碗) 天目碗 中国産陶器(壺, 甕) 須恵器(坏, 壺) 瓦器(碗) 瓦質土器(擂鉢) 東播系捏鉢 土師器(皿) 瓦 石製品(印石) 金属器(鉄釘, 銅製品) 自然遺物(骨)	
SK-012	G-3	1	14C末～15C初	0.93+α×0.7+α×0.14(3.95)	青磁(龍泉碗 III類) 中国産陶器 瓦質土器(擂鉢) 土師器(鍋, 皿, 坏) 金属器(銭)	皿7.9×1.6

遺構 No.	グリット	検出面	時期(C＝世紀)	規模 長辺×短辺×深(底面標高) m	出土遺物	土師器・皿・坏法量 (口径×高)cm
SK-013	F-1～2	1	14C末～15C初	1.46＋α×0.92×0.60 (3.49)	白磁(碗Ⅳ・Ⅵ類, ロハゲ皿, 枢府系坏, 壺)　青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類)　中国産陶器(甕)　国産陶器(甕)　瓦器(埦)　瓦質土器(擂鉢)　東播系捏鉢　土師器(皿)　瓦　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	
SK-014	F 2	1	14C末～15C初	1.32＋α×1.07×0.92 (3.11)	白磁(壺, 碗Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類・小碗, 高台付皿Ⅱ類, 平底皿Ⅲ類・ロハゲ皿)　青白磁(壺蓋)　青磁(龍泉双魚文盤, 越磁碗)　中国産陶器(盤, 鉢, 甕)　須恵器(甕)　瓦器(埦)　瓦質土器(擂鉢, 火舎)　土師器(坏, 甕, 竈)　瓦　石製品(砥石, 石硯)　金属器(銭, 銅製品, やっとこ)　自然遺物(骨)	
SK 015	B-2	1	14C中頃～15C	1.50＋α×0.98×0.18(4.04)	白磁(碗)　中国産陶器(甕)　土師器(鍋, 坏, 皿)　瓦　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	
SE-016	B-2～3	1	17C末～18C後半	1.18×1.17×3.49(0.64) 3.06×2.77×2.68(1.49)	白磁(碗Ⅱ～Ⅶ類・小碗, 壺, 平底皿Ⅲ・Ⅵ類・ロハゲ皿, 合子, 高台付皿Ⅱ類)　青白磁(合子)　青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅴ類・Ⅰ類・小碗, 瓶, 越磁碗, 合子, 同安碗Ⅰ・Ⅱ類, 皿, 李朝碗・皿, 鉢, 盤)　天目碗　明青花(碗, 盤, 皿)　安南青花(碗)　中国産陶器(瓶, 鉢, 盤, 甕, 水注, 捏鉢)　国産陶器(擂鉢, 壺, 甕)　近世陶磁器(伊万里染付碗・瓶, 色絵碗, 唐津刷毛目碗, 鉄絵皿, 京焼系小皿)　須恵器(坏, 甕, 壺, 高台付坏, 蓋)　瓦器・黒色土器A・B類(埦)　瓦質土器(捏鉢, 擂鉢, 火舎, 壺)　東播系捏鉢　土師器(鍋, 甕, 坏)　瓦(瑪)　土製品(瓦玉(瓦・白磁・陶器))　石製品(砥石, 石鉢, 石球, 石硯)　金属器(鉄釘, 銭(皇宋通宝, 聖宋通宝, 至宋通宝 他))　自然遺物(骨)	
SK-017	D～E-2	1	18C	6.60＋α×1.24＋α×1.44(2.73)	白磁(碗Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ類, 坏, 平底皿Ⅱ・Ⅵ類・ロハゲ皿)　青白磁(香炉)　青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類, 小鉢, 香炉, 盤, 李朝碗・壺・象嵌碗)　天目碗　中国産陶器(甕, 瓶, 盤)　国産陶器(壺, 捏鉢)　近世陶磁器(九州系陶器・甕・盤・擂鉢)　須恵器(甕, 坏, 坏蓋)　瓦器・黒色土器A・B類(埦)　瓦質土器(擂鉢, 捏鉢, 鉢)　土師器(鍋, 皿, 坏)　瓦(均正唐草文軒平瓦当)　土製品(瓦玉(陶器・土師器))　石製品(石鍋, 砥石)　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	
SK-018	E～F 2	1	14C末～15C初	1.64＋α×1.20＋α×0.37(3.71)	白磁(ロハゲ皿)　青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ類, 小壺)　中国産陶器(甕)　須恵器(高台坏, 甕)　瓦質土器(擂鉢, 捏鉢)　土師器(鍋, 皿, 坏)　金属器(刀子, 鉄釘, 金具)　骨角器(耳掻)	
SE-019	C 2	1	17C前半	1.60×0.81＋α×1.27＋α(3.00－α)	白磁(碗Ⅳ・Ⅸ類, ロハゲ皿)　青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類, 小鉢, 同安碗Ⅰ・Ⅱ類)　天目碗　明青花(碗)　中国産陶器(甕, 緑釉盤)　国産陶器(甕)　近世陶磁器(伊万里染付碗・白磁ぐい呑)　須恵器(甕, 坏)　瓦器・黒色土器A類(埦)　瓦質土器(擂鉢, 火舎)　土師器(鍋, 皿, 坏)　瓦　金属器(鉄釘, 銭)	
SK-021	E-3	1	15C後半～末	0.76＋α×0.74×0.44(3.74)	白磁(碗)　青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類)　中国産陶器　国産陶器　瓦質土器(擂鉢, 皿, 捏鉢)　土師器(鍋, 皿, 坏)　金属器(鉄釘)　自然遺物(貝)	
SE-022	C～D-4～5	1	17C前半	0.85×0.83 2.72×2.70×2.84(1.36)	白磁(碗Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ類, 高台付皿Ⅱ・平底皿Ⅰ～Ⅱ類・ロハゲ皿, 壺, 小壺, 水注, 小碗, 合子)　青白磁(壺)　青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅴ類・小碗, 小鉢, 盤, 蓋, 皿, 梅花皿, 同安碗Ⅰ－Ⅱ類, 李朝碗, 象嵌碗)　天目碗(書州窯)　明青花(碗, 皿, 壺)　中国産陶器(甕, 盤, 瓶, 水注, 花盆, 鉢, 壺, 茶入, 緑釉盤)　国産陶器(擂鉢, 片口, 甕, 天目碗, 緑釉碗, 壺)　近世陶磁器(伊万里染付碗, 唐津鉄絵皿, 九州系碗・皿, 関西系皿)　須恵器(坏, 高台付坏, 坏蓋, 甕, 壺)　瓦器・黒色土器A・B類(埦)　瓦質土器(捏鉢, 七輪, 擂鉢, 火舎, 香炉)　東播系捏鉢　土師器(鍋, 七輪, 皿)　瓦(瑪)　土製品(管状土錘, 土鈴, 瓦玉(青磁・陶器・土師器・瓦質))　石製品(石球, 砥石, 石鍋)　金属器(鉄釘, 銭, 金具, 銅製品, 刀鍔口金具, 筒金具)　木器(栓, 櫛)　墨書陶磁器　自然遺物(骨)	
SE-023	B-7	1	18～19C	0.76×0.34＋α×3.00(1.12) 2.06×1.95×2.33(1.71)	白磁(碗Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類, 德化窯碗, 壺, 水注, 高台付皿Ⅱ類・平底皿Ⅱ・Ⅵ類・枢府系皿)　青磁(龍泉碗Ⅲ類, 鉢, 香炉, 同安碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類, 高麗碗)　天目碗　明青花(皿・碗)　中国産陶器(盤, 瓶, 鉢)　国産陶器(天目碗, 擂鉢, 甕)　近世陶磁器(伊万里碗・瓶, 瀬戸湯呑み)　須恵器(坏, 高台付坏, 坏蓋, 壺, 甕)　瓦器・黒色土器A類(埦)　瓦質土器(3足香炉, 火舎, 壺, 擂鉢, 捏鉢)　土師器(鍋, 支脚, 皿, 坏, 甕, 高台付坏)　瓦　石製品(石鍋, 磨石, 砥石)　金属器(鉄釘, 銭)　墨書　自然遺物(骨)	
SE-024	C 7	1	19C	1.81＋α×1.75×3.40(0.67)	白磁(碗Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅸ類・ロハゲ, 高台付皿Ⅰ類・平底皿Ⅵ類・ロハゲ皿・枢	

遺構 No.	グリット	検出面	時期(C＝世紀)	規模 長辺×短辺×深(底面標高) m	出土遺物	土師器・皿・坏法量 (口径×高)cm
SE-024					府系皿) 青白磁(小碗, 小壺) 青磁(龍泉Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類, 小鉢, 平底皿, 同安碗Ⅱ類) 明青花(皿, 碗) 中国産陶器(盤, 瓶, 壺, 鉢, 捏鉢, 甕, 黒褐釉擂鉢) 国産陶器(備前瓶, 緑釉碗) 近世陶磁(紅皿, 伊万里染付碗・赤絵小鉢, 皿, 唐津二彩碗, 内野青釉皿, 九州系擂鉢, 灯明皿, 京焼系碗・搭口) 須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋, 壺, 甕, 円面硯) 瓦器(碗) 瓦質土器(擂鉢・捏鉢, 火舎) 東播系捏鉢 土師器(皿, 坏, 高台坏, 甕, 鍋, 七輪,) 瓦 土製品(素焼人形片, 瓦玉(白磁)) 石製品(石鍋) 金属器(鉄釘, 銭) 木器(摺敷) 自然遺物	
SK-025	A 3	1	15C中頃	2.14×1.58＋α×0.30(3.84)	白磁(碗Ⅴ類, 枢府系坏, 高台付皿, 壺) 青白磁 青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅴ類, 小鉢Ⅲ類) 天目碗 明青花(皿) 中国産陶器(甕, 捏鉢, 瓶) 須恵器(甕) 瓦器(碗) 瓦質土器(擂鉢, 火舎) 土師器(皿, 鍋) 瓦 金属器(鉄釘, 銅製品, 銭)	皿8.4～8.9×1.3～1.7 坏12.4×2.5
SK-026	A-3	1	15C中頃	1.17＋α×0.90×0.21(3.97)	白磁(皿) 青磁(龍泉碗Ⅴ類, 小鉢Ⅲ類) 中国産陶器(瓶) 瓦質土器(擂鉢) 土師器(皿) 金属器(銭)	
SK-027	B-3	1	15C初～前半	2.21×1.41＋α×0.40(3.75)	白磁(碗Ⅳ類, 皿, 盤) 青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類, 小鉢) 中国産陶器(盤, 甕, 瓶) 国産陶器 須恵器(甕) 黒色土器A類(碗) 瓦質土器(擂鉢) 土師器(皿, 鍋) 瓦 石製品(石鍋) 金属器(鉄釘, 銭)	
SK-028	A 4	1	15C	1.23＋α×1.86×0.23(4.02)	白磁(碗Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ類) 青磁(龍泉碗, 盤) 中国産陶器(瓶, 壺) 瓦質土器(擂鉢) 土師器(皿, 鍋) 瓦 金属器(鉄釘)	
SK 029	B-8	1	14C前半～中頃	1.70×1.15×0.47(3.63)	白磁(碗Ⅳ類, 平底皿 Ⅱ・Ⅲ類, 枢府系皿, ロハゲ皿, 壺) 青磁(龍泉碗Ⅲ類, 高台付皿, 小鉢, 盤, 瓶) 中国産陶器(甕, 瓶, 褐釉盤) 国産陶器(瀬戸 他 瓶) 近世陶磁(関西系白磁, 花器) 須恵器(坏, 坏蓋, 甕) 瓦器(碗) 瓦質土器(擂鉢, 火舎) 東播系捏鉢 土師器(皿, 坏, 脚付鉢) 瓦 石製品(石鍋, 石球, 砥石, 叩石) 金属器(鉄釘, 釣針, 銭) 自然遺物 (竹)	皿5.8～8.8×1.0～1.7 坏12.2×2.8
SK-032	B-5	1	17C末～18C後半	1.65＋α×1.35＋α×0.77(3.44)	白磁(碗, 壺, 八角小坏) 青磁(龍泉碗Ⅲ類, 盤, 李朝碗) 明青花(皿) 中国産陶器(皿, 甕, 瓶) 国産陶器 近世陶磁(伊万里染付碗・坏, 白磁皿, 唐津二彩皿・盤, 内野皿, 関西系白磁碗) 須恵器(甕, 高台坏) 瓦器(碗) 瓦質土器(擂鉢, 火舎) 土師器(皿, 坏, 焼塩壺) 瓦 石製品(石鍋, 紙石, 石球) 金属器(鉄釘) 自然遺物 (骨)	
SK 033	B 5	1	14C末～15C中頃	1.03＋α×0.82×0.24(3.91)	青磁(龍泉碗Ⅴ類, 小鉢) 中国産陶器(瓶, 甕) 須恵器(坏蓋) 瓦質土器(擂鉢, 鍋) 土師器(皿, 坏)	
SK-034	B-5	1	14C末～15C中頃	1.48＋α×1.12＋α×0.32(3.84)	白磁(碗Ⅳ類・印花, 壺, 八角小坏) 青磁(龍泉碗Ⅳ・Ⅴ類) 国産陶器(瓶) 瓦質土器(擂鉢, 捏鉢) 土師器(皿, 坏) 石製品(砥石, 石鍋) 金属器(鉄釘, 銭) 自然遺物(骨)	皿7.6～8.6×1.0～1.7
SK-035	B-6	1	14C前半～中頃	1.24×1.47×0.15(3.89)	白磁(碗Ⅵ類) 青磁(龍泉碗Ⅲ類) 中国産陶器(瓶, 盤) 須恵器(坏) 瓦質土器(捏鉢) 土師器(皿, 坏, 鍋) 瓦 金属器(鉄釘) 自然遺物(骨)	
SK-036	A-6	1	14C中頃～末	1.06＋α×0.80×0.43(3.78)	白磁(枢府系皿) 青磁(龍泉碗, 小鉢) 中国産陶器(瓶, 捏鉢) 瓦質土器(捏鉢) 土師器(皿, 坏, 鍋) 石製品(砥石, 石鍋, 叩石) 金属器(刀子, 銭) 自然遺物(骨)	
SK-037	B-6	1	13C末～14C中頃	2.77＋α×1.94＋α×0.08(4.06)	白磁(碗Ⅳ～Ⅶ類・小碗, 高台付皿Ⅱ類・平底皿Ⅱ・Ⅲ・Ⅵ類・ロハゲ皿・枢府系高台付皿, 水注, 合子, 仏像) 青白磁(小碗) 青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅳ類, 皿, 瓶, 同安碗Ⅰ・Ⅱ類) 天目碗 中国産陶器(鉢, 水注, 瓶, 壺, 甕, 捏鉢, 緑釉盤) 国産陶器(瓶, 擂鉢) 須恵器(坏, 坏蓋, 高坏, 甕) 瓦器(碗) 瓦質土器(擂鉢, 捏鉢) 東播系捏鉢 土師器(皿, 坏, 甕, 竈) 瓦 土製品(瓦玉(瓦質)) 石製品(石鍋, 磨石, 砥石) 金属器(鉄釘, 釣針, 銅製品, 銭(祥符元宝・皇宋通宝・熙寧元宝・元豊通宝・咸淳元宝 他)) 自然遺物(骨)	皿7.8～9.2×1.2～1.6 坏11.3～13.7×2.3～3.8
SK-038	B 7	1	14C前半～中頃	0.92×0.67×0.48(3.60)	白磁(碗, ロハゲ皿) 青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅳ類, 瀬金壺) 中国産陶器 国産陶器(甕) 土師器(皿, 坏, 甕, 竈, 鍋) 金属器(鉄釘) 自然遺物(骨)	
SK-039	A 8	1	14C中頃	2.11×2.08×0.47(3.61)	白磁(碗Ⅳ類, ロハゲ皿・枢府系皿, 小坏) 青磁(龍泉碗Ⅳ類・小碗) 中国産陶器(盤, 瓶) 国産陶器(備前・瀬戸 他・擂鉢, 瓶) 須恵器(坏, 壺) 瓦器(碗) 土師器(皿, 坏, 鍋) 石製品(砥石) 金属器(鉄釘・銭)	

遺構 No.	グリット	検出面	時期(C＝世紀)	規模 長辺×短辺×深(底面標高) m	出土遺物	土師器・皿・坏法量 (口径×高)cm
SK-040	C-8	1	15C初～中頃	1.25×0.91×0.30(3.69)	白磁(碗Ⅳ類, ロハゲ皿) 青磁(龍泉小碗) 中国産陶器(壺, 瓶) 国産陶器(壺) 近世陶磁(伊万里染付碗) 須恵器(坏, 壺) 瓦質土器(擂鉢, 火舎) 土師器(皿, 坏) 金属器(鉄釘) 自然遺物(骨)	
SK-041	C～D-8	1	15C初～中頃	1.81×1.47×0.18(3.82)	白磁(碗Ⅳ類, ロハゲ皿, 小坏) 青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅲ類, 小鉢) 中国産陶器(瓶) 国産陶器(備前他－壺, 壺) 須恵器(坏, 坏蓋) 黒色土器A類(埦) 瓦質土器(擂鉢, 壺) 土師器(皿, 坏, 鍋) 金属器(釣針, 鉄釘) 自然遺物(骨)	
SK-042	D-8	1	15C初～中頃	1.07+α×1.02×0.14(3.85)	白磁(小碗, ロハゲ皿) 青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類) 中国産陶器 須恵器(坏蓋, 壺) 瓦質土器(捏鉢) 土師器(皿, 坏) 金属器 自然遺物(骨)	
SK-043	C-8	1	14C前半～中頃	1.20+α×0.61×0.20(3.79)	白磁(ロハゲ皿) 中国産陶器 須恵器(坏) 瓦質土器 土師器(皿, 坏, 鍋, 鼎) 石製品(チャート) 自然遺物(骨)	
SK-044	B～C-8	1	18C	2.79×1.36+α×0.32(3.68)	白磁(碗Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅸ類, 平底皿Ⅲ類) 青白磁(梅瓶) 青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅲ類, 小鉢, 盤) 明青花(皿) 中国産陶器(盤, 壺, 瓶, 鉢) 国産陶器(瀬戸他 卸皿) 近世陶磁(伊万里白磁紅皿・染付碗・瓶・鉢, 色絵碗, 九州系陶器－壺・蓋・擂鉢, 関西系白磁碗, 花器, 唐津刷毛目碗) 須恵器(坏, 壺) 瓦器(埦) 瓦質土器(擂鉢, 火舎) 東播系捏鉢 土師器(皿, 坏, 鍋, 七輪サナ) 瓦 石製品(石鍋, 砥石) 金属器(鉄釘, 煙管雁首, 銭(型宋元宝他))	
SK-045	B-7	1	14C前半～中頃	1.84×0.88×0.35(3.69)	白磁(碗Ⅳ類・龍府系, 高台付皿Ⅱ類) 青磁(龍泉碗Ⅱ類) 中国産陶器(盤) 国産陶器 須恵器(坏, 高台坏) 瓦質土器(捏鉢) 土師器(皿, 坏, 鍋) 金属器(鉄釘, 釣針, 銭) 自然遺物(骨)	坏12.0～12.9×3.0
SK-046	C-8～9	1	18C	1.00×0.37	白磁(碗Ⅳ類) 青磁(同安碗Ⅱ類) 中国産陶器 近世陶磁(伊万里白磁碗・瓶・褐釉花器) 須恵器(坏) 瓦質土器(擂鉢) 土師器(皿, 坏) 瓦 金属器	
SE-047	C-9	1	14C中頃	1.11+α×0.84+α×0.47(2.79－α) 1.21+α×1.09+α×0.75(3.26)	白磁(碗Ⅳ・Ⅴ・Ⅸ類, 平底皿Ⅱ類・ロハゲ皿) 青白磁(合子) 青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ類, 同安碗) 中国産陶器(壺, 鉢, 盤, 瓶) 国産陶器(擂鉢, 壺) 瓦質土器(捏鉢) 土師器(皿, 坏) 石製品(浮子) 金属器(鉄釘)	
SK-048	B-7	1	14C前半～中頃	1.01×0.54+α×0.82(3.22)	白磁(碗Ⅳ～Ⅵ類, ロハゲ皿)青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅲ類) 大目碗 中国産陶器(壺, 瓶, 壺) 国産陶器 瓦器(埦) 土師器(皿, 坏, 鍋) 金属器(鉄釘) 自然遺物(骨)	坏12.0×3.0
SE-057	D-8	2	15C初～15C中頃	1.54×1.51×2.28(1.08) 3.86×3.58×1.96(1.45)	白磁(碗Ⅱ～Ⅵ・Ⅷ類, ロハゲ碗, 平底皿Ⅲ・Ⅵ類・高台付皿Ⅱ類, ロハゲ皿, 壺, 水注, 合子, 水滴) 青白磁(碗, 梅瓶, 小壺, 壺蓋)青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅳ類, 小鉢, 皿, 大盤, 同安碗Ⅰ・Ⅱ類, 越磁碗) 大目碗 中国産陶器(壺, 盤, 壺, 瓶, 捏鉢, 鉢, 茶入) 国産陶器(擂鉢, 壺, 瓶) 須恵器(坏, 高台坏, 高坏, 坏蓋, 壺, 壺) 瓦器(埦) 瓦質土器(擂鉢, 火舎, 捏鉢) 土師器(坏, 高坏, 甑, 壺, 高台坏, 鍋, 支脚, 注口) 瓦 土製品(瓦玉(瓦質・陶器), 有溝土錘, 管状土錘) 石製品(石球, 石鍋, 叩石, 浮子, 砥石, 磨石, チャート) 金属器(鉄釘, 刀子, 銭(政和通宝他)銅製品, スラグ)骨角器(刀子柄頭装飾, 笄) 木器(下駄, 折敷, 箸, 漆器皿, 矢板) 自然遺物(骨)	皿7.1～8.3×1.1～1.6
SK-058	B-6	2	13C末～14C中頃	2.90×2.74×0.44(2.93)	白磁(碗Ⅱ～Ⅳ・Ⅸ類, 平底皿Ⅱ類, 高台付皿Ⅱ類, 皿, 壺) 青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅲ類・小鉢, 同安碗Ⅰ・Ⅱ類) 大目碗 中国産陶器(盤, 瓶, 壺, 壺) 国産陶器(常滑他 壺) 須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋, 壺) 黒色土器A・B類(埦) 瓦質土器(捏鉢) 土師器(皿, 坏, 壺) 土製品(瓦玉(白磁)) 石製品(石鍋, 砥石, 石球) 金属器(鉄釘, 銭, 笄, 鉄鏃) 自然遺物(骨)	
SK-059	A-5	2	13C後半～14C中頃	2.05×1.07×0.33(3.00)	白磁(碗Ⅰ・Ⅳ・Ⅵ類・ロハゲ, 平底皿Ⅱ・Ⅲ類・ロハゲ皿・皿) 青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類, 皿, 小鉢, 同安碗Ⅱ類) 中国産陶器(瓶, 壺, 壺, 捏鉢, 盤) 須恵器(高台坏, 坏蓋, 壺, 壺) 瓦器(埦) 瓦質土器(擂鉢, 捏鉢, 鍋) 土師器(皿, 杯, 壺, 甑) 瓦 土製品(瓦玉(白磁), 紡錘車) 石製品(石鍋) 金属器(鉄釘, 銭, 銅製品) 自然遺物(骨)	皿7.5～8.9×1.0～1.5 坏12.0～12.7×2.5～3.3
SE-060	B-8	2	13C後半～14C中頃	2.14×1.87×1.70(1.67－α)	白磁(碗Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅸ類・ロハゲ, 平底皿Ⅲ・Ⅵ類・ロハゲ皿) 青白磁(碗) 青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ類, 小鉢, 皿, 同安碗Ⅰ・Ⅱ類) 天目(皿) 中国産陶器(盤, 鉢, 捏鉢, 瓶, 壺) 国産陶器(壺) 須恵器(坏, 高台坏, 高坏, 坏蓋, 壺, 壺) 瓦器・黒色土器A類(埦) 瓦質土器(擂鉢, 捏鉢, 火舎) 土師器(皿, 杯, 壺, 甑) 瓦 石製品(磨石, 石鍋) 金属器(鉄釘, 銅製品, 鉄) 自然遺物(骨, 貝)	皿7.6～8.0×1.2～1.6 坏12.8～13.3×2.1～2.5
SK-062	F-3	2	14C末～15C初	2.00+α×1.51+α×0.22(3.23)	白磁(碗Ⅱ～Ⅳ類, 高台付皿Ⅰ類・平底皿Ⅲ・Ⅳ類, ロハゲ皿・灯明皿, 壺) 青白磁(壺) 青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅲ類・小碗, 小鉢, 同安碗Ⅱ類) 中国産陶器(盤, 壺, 瓶, 壺, 緑釉盤) 国産陶器(壺, 擂鉢) 須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋, 壺, 壺, 蓋) 瓦器(埦) 土師器(皿, 坏, 丸底坏, 壺, 鍋) 瓦 土製品(瓦玉(陶器)) 石製品(石鍋, 石球, チャート) 金属器(鉄釘, 銭) 自然遺物(骨)	皿7.8～8.0×1.3～1.6

遺構 No.	グリット	検出面	時期(C－世紀)	規模 長辺×短辺×深(底面標高) m	出土遺物	土師器・皿・坏法量 (口径×高) cm
SK 063	F-4	2	14C末～15C初	1.28×0.75×0.34(3.24)	白磁(碗Ⅳ～Ⅵ類, ロハゲ皿)　青磁　中国産陶器(瓶, 鉢, 壺)　国産陶器(緑釉碗) 須恵器(坏, 壺)　瓦器(埦)　瓦質土器(擂鉢, 火舎)　土師器(皿, 坏)　石製品(砥石) 金属器(銭)　自然遺物(骨)	
SK-064	G 7	2	13C末～14C中頃	1.89+α×0.77+α×0.19(3.21)	白磁(碗Ⅵ類, 平底皿Ⅱ類・ロハゲ皿)　青磁(龍泉碗Ⅱ・皿類, 小鉢, 平底皿)　天目碗 中国産陶器(鉢, 擂鉢, 壺, 壺, 小坏)　国産陶器(瀬戸他一壺, 瓶)　須恵器(坏, 坏蓋, 壺)　瓦器(埦)　瓦質土器(擂鉢)　土師器(坏, 壺, 鍋)　瓦　石製品(石鍋)　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	
SK-065	G-5	2	14C末～15C初	1.06×0.50+α×0.36(3.25)	青磁(龍泉碗Ⅲ類, 盤)　土師器(皿)　金属器(鉄釘)	
SK-066	A 6	2	13C後半～末	1.06+α×1.07×0.17(3.15)	白磁(碗Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類)　青磁(越磁碗)　天目碗　中国産陶器(盤, 瓶, 壺)　須恵器 (坏, 坏蓋)　黒色土器A類(埦)　土師器(坏, 壺)	
SK-067	A-5	2	14C末～15C中頃	1.19×0.71+α×0.13(3.21)	白磁(碗Ⅵ・Ⅸ類, 高台付皿Ⅱ類・平底皿Ⅲ類)　青磁(龍泉碗Ⅰ類, 瓶)　中国産陶器 (瓶, 壺)　須恵器(壺)　瓦質土器(擂鉢)　土師器(皿, 坏, 壺, 高台坏)　金属器(鉄, 金具)　自然遺物(骨)	
SK-068	A-5	2	13C末～14C中頃	2.43+α×1.06+α×1.99(1.31)	白磁(碗Ⅱ～Ⅴ・Ⅸ類, 平底皿Ⅱ～Ⅳ類・高台付皿Ⅱ類・ロハゲ皿, 壺)　青磁(龍泉碗 Ⅰ～Ⅲ類, 小鉢, 皿, 同安碗Ⅱ類, 越磁碗)　中国産陶器(瓶, 壺, 擂鉢, 壺)　国産陶器 (備前・常滑他一瓶, 壺)　須恵器(坏, 坏蓋, 壺)　瓦器(埦)　瓦質土器(擂鉢)　土師 器(皿, 坏, 壺)　瓦　土製品(管状土錘, 瓦玉(白磁・陶器)) 石製品(石鍋, 石球, 砥石)　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	皿7.6～8.2×1.2～1.5 坏12.3～13.1×2.2～3.0
SK-069	F 3	2	13C末～14C中頃	2.08×0.82+α×0.18(3.29)	白磁(碗, ロハゲ皿)　青磁(龍泉碗Ⅱ類)　中国産陶器(壺)　須恵器(坏, 坏蓋)　瓦 質土器(擂鉢)　東播系擂鉢　土師器(皿, 鍋)　石製品(石鍋)　金属器　自然遺物 (骨)	
SK-070	A-3	2	15C初～前半	5.34+α×2.90×0.44(2.94)	白磁(碗Ⅱ～Ⅵ類, 平底皿Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類, 高台付皿Ⅱ類・ロハゲ皿, 合子, 梅瓶)　青 白磁(梅瓶)　青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅲ類, 小鉢, 小碗, 足付鉢, 皿, 同安碗Ⅰ・Ⅱ類, 皿Ⅰ類, 壺)　中国産陶器(鉢, 瓶, 壺, 壺, 盤)　国産陶器(瀬戸・備前他一壺, 擂鉢)　須恵器 (高台坏, 坏蓋, 壺)　瓦器(埦)　瓦質土器(擂鉢)　東播系擂鉢　土師器(皿, 坏, 壺, 高坏, 高台坏, 鍋)　瓦　土製品(管状土錘, 有清土錘, 人形, 瓦玉((白磁・青磁・国産陶 器))　石製品(石鍋, 石球, 砥石, 磨石, チャート)　金属器(鉄釘, 刀子, 銭)　木器 (漆器椀)　自然遺物(骨)	皿7.0～8.3×1.1～1.5 坏11.6～13.4×2.2～3.1
SK 071	F 3	2	13C末～14C中	1.74×0.52+α×0.16(3.31)	白磁(碗Ⅱ・Ⅴ類, ロハゲ皿)　青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ類, 小鉢, 高麗碗)　中国産陶 器(盤, 鉢, 瓶, 壺)　国産陶器(備前・常滑・瀬戸他一壺, 灯明皿)　須恵器(高台坏, 坏 蓋, 壺)瓦器・黒色土器B類(埦)　瓦質土器(擂鉢, 火舎)　土師器(皿, 坏, 壺)　瓦 金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	
SK-072	A-4	2	13C末～14C中	1.37+α×1.67×0.34(3.01)	白磁(碗Ⅰ・Ⅳ・Ⅵ類, 高台付皿Ⅱ類, 平底皿Ⅱ類)　青磁(同安碗Ⅰ類)　中国産陶器 (瓶, 鉢, 擂鉢)　国産陶器　須恵器(高台坏, 坏蓋, 壺)　瓦器(埦)　東播系擂鉢　土 師器(皿, 壺)　石製品(石鍋)　金属器(鉄釘, 銭(聖宋通宝他))　唐青陶磁器	
SK 073	A 4	2	13C末～14C中	1.78+α×1.26×0.14(3.18)	白磁(碗Ⅳ・Ⅴ類, 平底皿Ⅲ類)　青磁(同安碗Ⅰ類)　中国産陶器(擂鉢, 壺)　須恵 器(高台坏, 壺)　瓦器・黒色土器A類(埦)　土師器(皿, 坏, 壺, 高台坏)	
SE-075	B 7～6	2	13C後半～末	0.75×0.73×2.30(0.92) 3.15×2.63×1.02(2.28)	白磁(碗Ⅰ・Ⅱ～Ⅲ・Ⅸ類, 高台付皿Ⅰ・Ⅱ類, 平底皿Ⅱ・Ⅲ類・ロハゲ皿, 水注)青白磁 青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅲ類, 小鉢, 同安碗Ⅰ・Ⅱ類, 越磁碗, 壺, 壺)　天目碗　中国産陶器 (盤, 瓶, 鉢, 壺, 擂鉢, 壺)　国産陶器(瀬戸他一瓶)　須恵器(坏, 高台坏, 高坏, 壺) 瓦器・黒色土器A・B類(埦)　東播系擂鉢　土師器(皿, 坏, 丸底坏, 高台坏, 壺, 鍋, 鍋)　瓦　石製品(石鍋, 石球, 浮子, 砥石, チャート)　金属器(鉄釘, 刀子, 銭) 自然遺物(骨)	皿7.2～8.9×1.2～1.6 坏11.5～12.5×1.4～2.6
SK-076	F-2	3	13C後半	1.00+α×0.83+α×0.38(2.81)	白磁(碗Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類, ロハゲ皿)　青磁　天目碗　中国産陶器(瓶, 擂鉢)　須恵器 (坏, 坏蓋, 壺)　瓦器・黒色土器A類(埦)　土師器(皿, 坏, 壺, 蓋金, 壺, 塩焼壺)　瓦	
SK 079	C-7	3	14C前半～中頃	1.06×0.95×0.18(2.99)	白磁(碗Ⅱ類, 瓶)　青磁(龍泉碗Ⅰ類, 同安碗Ⅱ類)　中国産陶器　須恵器(壺)　瓦 質土器(擂鉢)　土師器(皿)　金属器(釣針)	皿8.1×1.2

遺構 No.	グリット	検出面	時期(C＝世紀)	規模 長辺×短辺×深(底面標高)cm	出土遺物	土師器・皿・坏法量 (口径×高)cm
SK-080	C-7	3	14C前半～中頃	1.20×1.08＋α×0.25(2.92)	白磁(碗Ⅵ類)　青磁(龍泉碗Ⅱ類,同安碗Ⅱ類)　中国産陶器(甕,瓶,鉢,捏鉢)　須恵器(甕)　土師器(皿,坏,甕)　石製品(石臼)　金属器	
SE-081	B-4～5	3	17C末～18C	1.11×1.10×？	白磁(碗・Ⅱ～Ⅵ・Ⅸ類,平底皿Ⅱ・Ⅲ類,壺)　青白磁(香炉)　青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ類,小鉢,盤,皿,高麗李朝碗,李朝象嵌碗)　天目碗　明青花(碗,皿)　中国産陶器(鉢,捏鉢,壺,瓶,甕)　国産陶器(甕,擂鉢)　近世陶磁(伊万里染付碗,皿,瓶,蓋,白磁小坏皿,内野皿,色絵碗,唐津皿,九州系陶器甕・盤,陶西系白磁碗・陶器蓋)　須恵器(坏,高台坏,坏蓋,甕)　瓦器・黒色土器A・B類(碗)　瓦質土器(七輪)　土師器(皿,坏,高坏,鍋,七輪)　土製品(人形,瓦玉(白磁・瓦・土師器))　石製品(浮子,叩石,石鍋,石硯)　金属器(鉄釘,銭(聖宋元宝,他),スラグ)　木器(番号札(㋐　二文))　自然遺物(骨)	皿7.0×1.2
SK-083	B-5	4	13C後半～14C初	2.92×1.54＋α×1.23(1.72)	白磁(碗・Ⅳ・Ⅵ・Ⅸ類,平底皿Ⅱ類・ロハゲ皿,水注,小壺)　青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅲ類,小鉢,皿,同安碗Ⅰ・Ⅱ類)　中国産陶器(甕,捏鉢,水注,瓶,鉢,盤,褐釉壺亀形浮文)　国産陶器(擂鉢,甕,緑釉壺)　近世陶磁(伊万里染付碗,白磁ぐい呑,唐津二彩皿,九州系陶器花器,丸)　須恵器(甕,坏蓋)　瓦器・黒色土器A類(碗)　瓦質土器(擂鉢,捏鉢,火舎)　東播系捏鉢　土師器(皿,坏,高台坏,高台皿,甕)　瓦・塼　石製品(石器,黒雲石)　金属器(鉄釘,銭,鉸口金具,笄,縁金具,鋲金具)　木器(差物)　自然遺物(骨)	皿6.0～8.6×1.2～1.4 坏11.7～13.8×1.8～3.1
SK-084	B-6	4	12C中～後半	1.19＋α×0.72×0.98(1.93)	白磁(碗・Ⅱ～Ⅵ・Ⅸ類,合子)　青白磁　青磁(越磁碗)　中国産陶器(甕,鉢,水注,瓶)　国産陶器　須恵器(坏,高台坏,坏蓋,甕)　瓦器(碗,皿)　黒色土器A・B類(碗)　土師器(皿,坏,高台坏,甕)　瓦　石製品(石球,砥石)　自然遺物(骨)	
SK-085	A－B-6	4	12C後半～末	4.21×2.88×0.57(2.22)	白磁(碗Ⅰ～Ⅳ・Ⅸ類,高台付皿Ⅰ・Ⅱ類,平底皿Ⅰ～Ⅳ・Ⅵ類,小壺,合子,四耳壺,水滴,水注)　青白磁(碗,合子)　青磁(越磁碗,高麗碗,龍泉碗Ⅰ・Ⅱ類,同安碗)　天目碗　中国産陶器(甕,壺,捏鉢,盤,瓶,水注,皿,行平)　国産陶器(甕,碗)　須恵器(坏,高台坏,高坏,坏蓋,壺,甕)　瓦器・黒色土器A・B類(碗)　土師器(皿,甕,焼塩壺,高台坏,坏,高坏,硯壺,吹子羽口)　瓦(華花文軒丸瓦当)　上製品(管状土錘,瓦玉(白磁))　石製品(石鍋,砥石,叩石,石球,有孔円盤)　金属器(鉄釘,刀子,銭,和鏡,スラグ)　木器(箸)　ガラス(壁状装飾品,屑,玉)　墨書陶磁器　自然遺物(骨,人骨)	皿9.7×1.3
SK-086	A-5	4	12C初～中頃	1.96×0.85×0.40(2.28)	白磁(碗Ⅱ～Ⅳ類,平底皿Ⅲ類・高台付皿Ⅱ類,壺)　青磁(碗)　中国産陶器(壺,甕,皿)　国産陶器(灰釉碗)　須恵器(坏,高台坏,坏蓋,甕)　瓦器・黒色土器A・B類(碗)　瓦質土器　土師器(皿,坏,高台坏,甕)　石製品(砥石)　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	
SK-087	A-8	5	13C後半～14C初	2.54×1.73＋α×0.95(1.76)	白磁(碗Ⅱ～Ⅳ類,ロハゲ皿,壺)　青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ類・小碗,同安碗Ⅰ類)　中国産陶器(盤,瓶,鉢,褐釉鉢)　国産陶器(甕)　須恵器(坏,高台坏,坏蓋,皿,甕)　瓦器・黒色土器A・B類(碗)　土師器(皿,坏,高坏,甕,焼塩壺,盤,鍋)　瓦　土製品(瓦玉(白磁))　石製品(石鍋)　金属器(鉄釘)　ガラス(環)　自然遺物(骨,人骨)	皿8.0～9.0×1.2～1.5
SK-088	B-8	5	12C末～13C初	1.38＋α×1.14×0.25(2.06)	白磁(碗Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ類,平底皿Ⅰ類)　青磁(龍泉碗Ⅱ類)　中国産陶器(瓶)　国産陶器　須恵器(坏,高台坏,坏蓋,甕)　瓦器・黒色土器B類(碗)　土師器(皿,坏,甕)　金属器(鉄釘)	
SK-089	B-8	5	13C末～14C前半	1.87×1.97×1.14(1.52)	白磁(碗Ⅱ～Ⅳ類,高台付皿Ⅱ類・平底皿Ⅱ・Ⅲ類・ロハゲ皿,壺・小壺・小壺蓋)　青磁(龍泉碗Ⅰ～Ⅲ類・小鉢,皿,酒会壺　同安碗Ⅰ・Ⅱ類,越磁碗)　天目碗　中国産陶器(甕,瓶,捏鉢,皿,盤)　国産陶器(甕,壺,鉢)　近世陶磁(伊万里染付碗)　須恵器(坏,高台坏,坏蓋,甕,壺)　瓦器(皿)　瓦質土器(捏鉢,壺,鍋)　東播系捏鉢　土師器(皿,甕,高台付鉢,鍋,焼塩壺,支脚)　瓦　土製品(丸玉(白磁)　管状土錘,土球)　石製品(石鍋,石錘,叩石,砥石,石球)　金属器(鉄釘,銭(祥符元宝,他))　自然遺物(骨,貝)	皿7.4×1.2 坏12.7～16.3×2.7～3.0
SK-090	A-4	5	12C後半～末	2.45＋α×0.74×0.08(2.64)	白磁(碗Ⅲ～Ⅳ・Ⅸ類,平底皿Ⅱ類,壺)中国産陶器(壺,甕,捏鉢,黒褐釉瓶)　国産陶器(甕)　須恵器(坏,高台坏,坏蓋,甕)　瓦器・黒色土器A・B類(碗)　瓦質土器(擂鉢)　瓦　土師器(皿,坏,丸底坏,甕,支脚)　石製品(砥石,石鍋)　自然遺物(骨)	
SK-091	A-3	5	12C前半～中頃	1.65×1.15＋α×0.73(2.09)	白磁(碗Ⅱ～Ⅳ・Ⅵ・Ⅷ類,壺蓋,平底皿Ⅲ類)　青磁(龍泉瓶)　中国産陶器(盤,鉢,捏鉢)　国産陶器(灰釉甕,緑釉碗)　須恵器(坏,高台坏,坏蓋,甕)　瓦器・黒色土器A類(碗)　東播系捏鉢　土師器(皿,坏,高台坏,甕)　土製品(瓦玉(同安碗))　石製品(石球)　金属器(スラグ)　墨書陶磁器　自然遺物(骨)	

遺構 No.	グリット	検出面	時期(C＝世紀)	規模 長辺×短辺×深さ(底面標高)m	出土遺物	土師器・皿・坏法量 (口径×高)cm
SK-092	A-3	5	12C初～中頃	1.60×1.27＋α×0.50(2.50)	白磁(碗Ⅳ・Ⅵ・Ⅸ類, 平底皿Ⅱ類)　中国産陶器(甕, 壺, 捏鉢, 皿)　国産陶器(甕) 須恵器(坏, 坏蓋, 甕)瓦器・黒色土器B類(埦)　土師器(皿, 坏, 甕)　瓦　土製品(瓦玉(白磁))　石製品(石鍋, 浮子)　金属器(鉄釘, スラグ)　自然遺物(骨)	
SK-093	A 4	5	12C初～前半	0.48＋α×0.40×0.20(2.52)	青磁(高麗碗)　中国産陶器(甕)　土師器(皿, 甕)	
SK-094	A～B-7	5	8C後半	0.92×0.87×0.26(2.39)	須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋, 甕, 壺)　土師器(皿, 坏, 甕)　瓦	
SK-095	A-6	5	11C中～後半	0.76＋α×0.75×0.29(2.39)	白磁(碗Ⅸ類)　須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋, 壺)土師器(皿, 坏, 甕, 焼塩壺)　金属器	
SK-096	B-8	5	13C末～14C前半	2.05×1.88＋α×1.15(1.50)	白磁(碗Ⅳ～Ⅵ・Ⅸ類, 平底皿Ⅵ類)　青白磁(碗)　青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅱ類)　天目碗 中国産陶器(壺, 甕, 瓶)　国産陶器(備前・常滑 他一甕)　須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋, 高坏, 甕, 壺, 瓶)　瓦器・黒色土器A・B類(埦)　瓦質土器(火舎, 捏鉢)　土師器(皿, 坏, 高台坏, 甕, 鍋, 焼塩壺)　瓦　土製品(瓦玉(白磁))　石製品(石鍋, 砥石)　金属器(鉄釘, スラグ)　自然遺物(骨)	皿9.3～9.6×1.0～1.2
SE-097	B-8	5	18C末～	0.68×0.38＋α×？ 2.81×1.62＋α×？	白磁(碗Ⅳ・Ⅵ類, 壺)　青白磁(合子, 碗)　青磁(龍泉碗・Ⅳ類,　小鉢, 鉢, 李朝象嵌碗)　中国産陶器(盤, 捏鉢, 壺, 甕, 瓶)　国産陶器(備前・常滑・瀬戸他一甕鉢, 甕, 灰釉皿)　近世陶磁(伊万里白磁, 染付碗, 皿, 唐津二彩皿)　須恵器(坏, 坏蓋, 甕)　瓦器・黒色土器A類(埦)　瓦質土器(擂鉢, 捏鉢, 火舎)　土師器(皿, 坏, 焼塩壺, 甕, 高坏)　瓦　土製品(瓦玉(白磁, 須恵器))　石製品(石鍋, 砥石, 叩石)　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	
SK-099	A-7	5	8C後半	1.76×0.90×0.11(2.27)	須恵器(甕, 坏蓋, 壺)　土師器(甕, 高坏)	
SK 101	E 5	049・5	14C初～前半	1.40×0.44＋α×1.31(1.91)	白磁(碗Ⅳ・Ⅶ類, 平底皿, 壺, 合子)　青磁(龍泉碗Ⅲ類)　中国産陶器(甕, 壺)　国産陶器(備前他一甕)　須恵器(坏, 高台坏, 甕)　瓦器・黒色土器B類(埦)　瓦質土器(火舎, 捏鉢)　土師器(皿, 坏, 甕, 竈)　石製品(石鍋)　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	皿7.9×1.3 坏12.1～12.6×2.5～2.6
SK-102	E-6	049・5	13C末～14C初	1.48×1.39×0.86(2.33)	白磁(碗 Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ類・ロハゲ, 高台付皿Ⅱ類・平底皿Ⅲ類・ロハゲ皿, 壺, 水注) 青白磁(小皿)青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類, 小鉢, 小碗, 蓋蓋, 盤, 同安碗Ⅱ類, 越磁碗, 鉢) 中国産陶器(盤, 甕, 壺, 瓶, 捏鉢)　国産陶器(備前・常滑 他一甕, 擂鉢)　須恵器(坏, 高台坏, 高坏, 坏蓋, 甕)　瓦器・黒色土器B類(埦) 瓦質土器(捏鉢)　東播系捏鉢　土師器(皿, 坏, 鍋)　土製品(瓦玉(白磁・青磁・陶器・瓦質), 素焼人形)　石製品(石球, 石鍋, 砥石, 石硯)　金属器(鉄釘, 銭)　木器(下駄の歯, 折敷)　自然遺物(骨)	皿6.9～8.6×1.0～1.7 坏11.6～12.7×2.2～2.8
SK 103	E 7	049・5	13C後半～14C初	1.24×0.74×0.16(2.80)	白磁(碗Ⅲ類, ロハゲ皿)　青磁(龍泉碗Ⅱ類)　中国産陶器(盤, 甕)　国産陶器(備前他一甕)　須恵器(甕)　黒色土器A類(埦)　瓦質土器(火舎, 捏鉢)　土師器(皿, 坏)　石製品(砥石, 石鍋)　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	皿7.0～8.3×1.3～1.5 坏12.5～13.7×2.0～3.2
SK 104	E～F-7	049・5	13C末～14C初	1.25×1.00×0.62(2.62)	白磁(碗)　青磁　中国産陶器(皿)　須恵器(坏, 甕)　土師器(皿, 坏, 甕, 竈)　石製品(石鍋)　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	皿8.0～8.6×1.3 坏11.2～12.4×2.4～2.6
SK 105	F-8	049・5	13C後半～14C初	1.14×0.56＋α×0.36(2.63)	白磁(碗Ⅳ・Ⅴ・Ⅸ類・ロハゲ碗, 平底皿Ⅵ類・ロハゲ皿)　青白磁(合子)　青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ類, 同安碗Ⅱ類)　天目碗　中国産陶器(盤, 甕, 壺, 瓶)　国産陶器(甕)　須恵器(坏, 甕)　瓦質土器(捏鉢)　東播系捏鉢　土師器(坏, 甕)　瓦　石製品(砥石) 金属器(鉄釘, 銭)　自然遺物(骨)	
SK-107	E-6	049・5	13C後半～14C初	1.40×0.86×0.31(2.77)	白磁(碗 Ⅲ類・高台付皿・ロハゲ皿)　青磁(龍泉碗Ⅱ類)　中国産陶器　国産陶器(備前他　甕)　須恵器(坏, 甕)　瓦器(埦)　東播系捏鉢　土師器(坏, 甕)　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	皿7.9～8.4×1.0～1.7 坏11.6～12.6×2.5～3.2
SK-108	F-5	049・5	13C末～14C初	0.71×0.56×0.28(2.75)	白磁(碗Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ類, 高台付皿Ⅱ類・平底皿Ⅱ類・ロハゲ皿)　青磁(龍泉碗Ⅱ類) 中国産陶器(盤, 捏鉢, 壺)　須恵器(甕, 坏, 高台坏)　瓦器・黒色土器A・B類(埦) 土師器(坏, 丸底坏, 高台坏, 甕)　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	皿7.9×1.3
SK-110	E-7	049・5	13C後半～14C初	1.12×0.74×0.58(2.40)	白磁(碗Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ類・ロハゲ, 平底皿Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ類・高台付皿Ⅱ類・ロハゲ皿・壺, 壺蓋)　青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ類・小碗, 小鉢, 高麗)　中国産陶器(盤, 瓶, 甕, 捏鉢) 国産陶器(甕)　須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋, 甕)　東播系捏鉢　土師器(鍋)　土製品(瓦玉(瓦))　金属器(鉄釘, 銭)　自然遺物(骨, 貝殻)	皿8.2～8.4×1.2 坏11.8×2.7

遺構 No.	グリット	検出面	時期(C＝世紀)	規模 長辺×短辺×深(底面標高)m	出土遺物	土師器・皿・坏法量 (口径×高)cm
SE 111	E-F-5	049・5	13C前半～後半	0.79×0.61＋α×1.32(0.48) 2.30×1.98×0.37(1.92)	白磁(碗Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類・小碗, 平底皿Ⅱ類・ロハゲ皿)　青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ類, 越磁碗)　中国産陶器(瓶, 壺, 鉢)　須恵器(坏, 高台坏, 高坏, 坏蓋, 壺, 壺)　瓦器(埦, 皿)　黒色土器A・B類(埦)　瓦質土器(火舎, 捏鉢)　土師器(坏, 高台坏, 壺, 甑, 竈)　土製品(瓦玉(陶器))　石製品(浮子, 砥石)　金属器(銭)　自然遺物(骨)	
SK-112	E-5	049・3	14前半～中頃	1.15×1.00×0.43(2.98)	白磁(碗Ⅳ類, ロハゲ皿)　青磁(龍泉碗Ⅱ類, 小鉢, 小碗)　中国産陶器(壺, 壺)　国産陶器(擂鉢)　須恵器(壺, 坏)　瓦質土器(擂鉢, 壺)　土師器(坏)　瓦　石製品(石錘)　金属器(銭)　骨角器(笄)　自然遺物(骨)	坏11.6×2.3
SK 113	E 6	049・6	13C後半～14C初	1.16×1.05＋α×1.10(1.73)	白磁(碗Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類・ロハゲ, ロハゲ皿)　青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ類, 小鉢)　中国産陶器(盤, 鉢, 瓶, 壺, 捏鉢, 壺)　国産陶器(備前他一壺)　須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋, 壺)　瓦器(埦)　瓦質土器(捏鉢)　東播系捏鉢　土師器(坏, 高台坏)　土製品(管状土錘, 瓦玉(青磁))　金属器(鉄釘, 銭)　自然遺物(骨)	皿8.2×1.0 坏11.1～12.3×1.2～1.5
SK-114	F-8	049・6	12C初～中頃	0.94×0.77×0.90(2.00)	白磁(碗Ⅲ・Ⅳ類)　中国産陶器(捏鉢, 小瓶)　須恵器(坏, 高台坏, 高坏, 坏蓋, 壺)　瓦器(埦)　土師器(坏, 焼塩壺, 甑)　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨, 香木)	
SK-115	E-3	049・5	13C後半	0.77×0.42×0.36(2.76)	白磁(ロハゲ皿)　青白磁(合子)　青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅱ類)　中国産陶器　須恵器(坏, 坏蓋)　黒色土器B類(埦)　東播系捏鉢　土師器(坏, 甑)　金属器(鉄釘, 銭)　自然遺物(骨)	
SK-116	E-3	049・5	11C中～後半	0.94×0.71×1.08×(2.05)	白磁(碗Ⅱ類)　国産陶器(緑釉瓶)　須恵器(坏蓋, 壺, 壺)　土師器(坏, 甑)　石製品(磨石, 砥石)　金属器(鉄釘)	
SK-117	D-3	049・5	13C後半	1.33×1.10×1.13(1.98)	白磁(碗Ⅱ・Ⅴ類, ロハゲ皿・平底皿Ⅲ類)　青白磁(皿)　青磁(龍泉碗Ⅱ類)　中国産陶器(壺, 鉢)　国産陶器(壺, 緑釉壺)　須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋, 高坏, 壺, 壺)　瓦器(埦)　瓦質土器(捏鉢)　東播系捏鉢　土師器(坏, 丸底坏, 高台坏, 甑, 竈, 鍋)　金属器(鉄釘, 銭)　自然遺物(骨)　土製品(吹子羽口)	坏13.2×3.0
SK 118	E-2	049・5	13C後半	1.68×0.71×0.47(2.67)	白磁(碗Ⅳ・Ⅵ類, ロハゲ皿)　青磁(碗Ⅱ・Ⅲ類, 同安碗Ⅱ類)　中国産陶器(盤, 壺, 緑釉壺)　国産陶器(緑釉壺)　須恵器(坏, 坏蓋, 高台坏, 壺, 壺)　瓦器(埦)　瓦質土器(捏鉢)　東播系捏鉢　土師器(坏, 甑, 焼塩壺, 竈)　瓦　金属器(鉄釘)　自然遺物(骨)	坏12.8×2.6
SK 121	D-6	049・7	11C～12C	1.40×0.83＋α×0.44(1.55)	中国産陶器(壺)　土師器(高坏, 甑, 坏)	
SE-122	E 5	049・7	11C末～12C中頃	3.14×1.23＋α×0.83(1.43)	青磁(越磁碗)　中国産陶器(瓶)　国産陶器(緑釉壺)　須恵器(坏, 高台坏, 高坏, 坏蓋, 壺, 甑)　瓦器・黒色土器A・B類(埦)　瓦質土器(鉢)　土師器(坏, 坏蓋, 甑, 竈, 高台坏, 鍋)	
SK-124	F 2	049・5	13C後半	1.16×0.73＋α×0.36(2.71)	白磁(碗Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類・ロハゲ, 平底皿Ⅱ類・ロハゲ皿)　青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ類, 小碗, 鉢, 同安碗Ⅱ類)　天目碗　中国産陶器(壺, 壺, 瓶, 捏鉢)　国産陶器(壺)　須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋)　瓦器・黒色土器B類(埦)　瓦質土器(捏鉢)　土師器(坏, 甑, 鍋)　石製品(石錘)　金属器(銭)　木器(折敷)　自然遺物	皿7.1～7.2×1.2～1.4
SK-125	D-3～4	049・5	13C末～14C初	2.70×1.34×0.14(2.93)	白磁(碗Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅸ類・ロハゲ, ロハゲ皿・平底皿Ⅲ・Ⅳ類, 壺)　青白磁(合子, 注口)　青磁(龍泉碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類, 小碗, 小鉢, 盤, 壺, 皿, 同安碗Ⅱ類)　中国産陶器(盤, 捏鉢, 瓶, 壺, 壺, 鉢, 皿, 黒褐釉壺)　国産陶器(備前・常滑・瀬戸他一壺, 壺, 擂鉢)　須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋, 壺, 円面硯)　瓦器・黒色土器(埦)　瓦質土器(擂鉢, 捏鉢)　東播系捏鉢　土師器(坏, 壺, 丸底坏, 高台坏, 竈, 高台付埦)　瓦　土製品(瓦玉(白磁・青白磁・青磁・瓦))　石製品(石錘, 石鍋, 砥石, 上製品雛型)　金属器(鉄釘, 銭)　自然物(骨, 貝, 香木)　木器	皿7.6～8.5×1.2～1.5 坏11.8～12.1×2.4～2.6
SK-126	E 4～5	049・5	13C末～14C初	2.17×1.64×0.94(1.80)	白磁(碗Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅸ類・ロハゲ・平底皿Ⅱ・Ⅲ類)　青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ類・小碗, 小鉢, 同安碗Ⅰ類, 越磁碗)　中国産陶器(盤, 瓶, 壺)　国産陶器(常滑 他一壺)　須恵器(坏, 高台坏, 壺)　瓦質土器(捏鉢)　東播系捏鉢　土師器(坏, 坏蓋, 壺)　瓦　土製品(瓦玉(陶器))　石製品(石錘, 砥石)　金属器(鉄釘, 包丁, 銭)　自然遺物(骨)	坏12.1×2.5
SK-127	E-4-5	049・5	14C前半～中頃		白磁(碗Ⅴ・Ⅵ類, ロハゲ皿)　青磁(龍泉碗Ⅱ・Ⅲ類, 香炉)　明青花(皿)　中国産陶器(盤, 壺, 鉢)　国産陶器(擂鉢, 壺)　須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋, 壺)　瓦器・黒色土器B類(埦)　東播系捏鉢　土師器(坏, 高台坏, 壺, 竈)　瓦　土製品(素焼人形)　石製品(石錘, 砥石)　金属器(鉄釘, 銭)　自然遺物(骨)	坏12.4～13.0×2.4～2.7
SK-129	D 3	049・8	9C～10C	0.95＋α×0.89＋α×0.83(1.85)	須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋, 壺, 壺)　黒色土器A類(埦)　土師器(坏, 壺)	
SK-130	D-3	049・8	11C末～12C中頃	1.10×0.87＋α×0.82(1.76)	白磁(碗Ⅳ類)　須恵器(坏, 高台坏, 壺)　土師器(坏, 高台坏, 壺)　金属器	
SE-131	D-3	049・8	12C初～中頃	0.73×0.64×2.08(0.75) 1.70＋α×1.66×1.41(1.41)	白磁(碗Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類, 平底皿Ⅳ類)　青磁(龍泉碗Ⅱ類, 同安碗Ⅰ類)　中国産陶器(鉢, 瓶, 壺)　須恵器(坏, 高台坏, 坏蓋, 壺)　瓦器(埦)　土師器(坏, 丸底坏, 竈)	

遺構 No.	グリット	検出面	時期(C＝世紀)	規模 長辺×短辺×深(底面標高) m	出土遺物	土師器・皿・坏法量 (口径×高)cm
SE-132	C 3	049/6	11C中頃～12C初	0.68×0.65×0.40(0.84) 1.36×1.29×0.69(1.05)	白磁(碗II・III・IV・V・VI類,平底皿VI類・高台付皿II類) 中国産陶器(盤,捏鉢,瓶,皿,壺,壺) 須恵器(坏,坏蓋,甕,壺) 瓦器(埦,皿) 黒色土器A類(埦) 土師器(坏,甕,竈) 瓦 土製品(瓦玉(白磁)) 石製品(石球,石鍋,白玉片,滑石製双鹿小壺) 自然遺物(骨)	
SE-133	C 3	049/6	12C前半～中頃	0.39×0.42×0.22(1.10) 0.59×0.62×0.57(1.28)	白磁(碗II・III類) 中国産陶器 須恵器(坏,高台坏,甕) 黒色土器A類(埦) 瓦 土師器(坏,鍋,甕,皿) 石製品(石鍋)	坏15.4×2.3
SK-136	E～F 3	049/6	14C初～前半	1.67×1.39×0.66(1.96)	白磁(碗VI・VII類) 青磁(龍泉碗II類) 中国産陶器 須恵器(壺,甕) 黒色土器A類(埦) 土師器(甕,高台坏,皿)	
SK-137	E-4～5	049/6	11C中～後半	1.24×1.04＋α×0.47(2.03)	白磁 青磁(碗II・VI類,平底皿II類) 中国産陶器(捏鉢,鉢) 須恵器(坏,高坏,高台坏,壺,甕) 瓦器(埦) 土師器(坏,丸底坏,甕,竈,皿) 自然遺物(獣骨)	
SK-138	F 4	049/6	12C初～中頃	1.17×0.89×0.47(2.09)	白磁(碗V類,高台付皿II類) 中国産陶器(甕) 須恵器(甕,坏) 土師器(坏,甕,皿)	
SE-139	C 2	1	近・現代	1.14×1.09×？	白磁(碗II～VI類,平底皿III・VI類・ロハゲ皿) 青白磁(梅瓶) 青磁(龍泉碗I～IV類 同安碗II類,李朝碗) 明青花(碗) 中国産陶器(盤,甕,捏鉢,瓶,壺) 国産陶器(甕,緑釉) 近世陶磁(伊万里染付碗,京焼系碗,土管) 須恵器(高台坏,坏蓋,甕) 瓦器・黒色土器A・B類(埦) 瓦質土器(擂鉢,捏鉢,火舎) 土師器(皿,鍋,七輪) 瓦 土製品(素焼人形片,瓦玉(青磁・土師器)) 石製品(石鍋,石球,砥石) 金属器(鉄釘,銭) 木器(球) 自然遺物(竹,貝)	皿7.3×1.4
SE 140	F-6～7	049/7	10C中頃～12C初	2.46×2.10＋α×1.2(1.20)	白磁(碗) 青磁(越磁碗) 国産陶器(甕,緑釉碗) 須恵器(坏,高台坏,坏蓋,甕) 黒色土器A類(埦) 土師器(坏,高台坏,丸底坏,甕,竈,焼塩壺,皿) 瓦 石製品(石臼,石鍋) 金属器(金具) 木器(折敷) 自然遺物(骨)	
SE-141	C-5	1	近・現代	1.17×1.10×？	白磁(碗II～VI・IX類,平底皿II類・ロハゲ皿) 青磁(龍泉碗II・IV類,皿,李朝碗) 明青花(碗) 中国産陶器(盤) 国産陶器(擂鉢,甕) 近世陶磁(伊万里染付碗,ぐい呑,京焼系碗,花器,関西系盤) 須恵器(高台坏,壺) 黒色土器B類(埦) 瓦質土器(擂鉢) 土師器(皿,坏,甕,瓶) 瓦 土製品(素焼人形片) 金属器	皿7.7×1.4
SE-142	C-6		近・現代	0.77×0.76×？ 1.14×1.16×？	白磁(李朝粉青碗・碗V類) 青磁(龍泉碗V類) 国産陶器(擂鉢) 須恵器(壺,甕) 土師器(皿) 金属器 木器(杭)	
SC-123	C-7～8	6	7C後半	2.94＋α×0.74＋α×0.28(1.76)	須恵器(坏,高台坏,坏蓋,甕) 土師器(皿,坏,高台坏,甕)	
SX-051	D-8	2	15C初～中頃	2.20×1.50×0.56(3.28)	白磁(碗II・III・IV・V・VI・IX類・ロハゲ,平底皿III・VI類・ロハゲ皿,壺,合子) 青白磁(梅瓶) 青磁(龍泉碗II・III類,鉢,同安碗II類) 中国産陶器(盤,鉢,甕,壺,瓶,捏鉢) 国産陶器(甕,卸皿) 須恵器(坏) 瓦器(埦) 瓦質土器(擂鉢,捏鉢,火舎) 東播系捏鉢 土師器(皿,坏,甕) 瓦 土製品(管状土錘,瓦玉(白磁)) 石製品(石鍋,砥石,硯) 金属器(鉄釘,銭) 自然遺物(獣骨)	
SX-053	G 6	2	13C末～14C初	1.02×0.54×0.23(3.43)	白磁(碗III類,ロハゲ皿,壺) 青磁(龍泉碗II・III類) 中国産陶器(盤,捏鉢,甕) 須恵器(高台坏,甕) 瓦器・黒色土器B類(埦) 瓦質土器(捏鉢) 土師器(鍋,支脚,皿,坏,甕) 瓦 石製品(石鍋) 自然遺物(獣骨) 土製品(吹子羽口)	
SX-054	D-6	2	14C末～15C初	3.80×1.38×0.37(3.43)	白磁(壺) 青白磁(小坏) 青磁(龍泉碗III類,鉢) 中国産陶器(瓶) 国産陶器(甕) 瓦質土器(擂鉢,捏鉢,火舎) 土師器(皿,坏,甕,鍋,支脚) 土製品(瓦玉(青白磁)) 石製品(砥石) 金属器(鉄釘,銭) 自然遺物(獣骨)	
SX-055	B-6	2	13C後半～14C中頃	0.90×0.74×0.26(3.45)	白磁(碗IV・V・VI類,ロハゲ皿・平底皿II類・高台付皿II類,壺) 青白磁(壺,壺蓋) 青磁(龍泉碗II・III類,皿,同安II類,小鉢) 天目碗 中国産陶器(盤,瓶,甕,皿,鉢) 国産陶器 須恵器(坏,甕) 瓦器・黒色土器A類(埦) 瓦質土器(捏鉢) 東播系捏鉢 土師器(皿,坏,高台坏,甕,鍋) 土製品(瓦玉(白磁・青磁)) 石製品(石鍋) 金属器(鉄釘,銭(開元元宝・聖宋元宝・他)) 墨書陶磁器 自然遺物(馬歯,貝)	
SX-100	A-7	5	8C中頃	0.83＋α×0.51＋α×0.15(2.20)	須恵器(坏蓋) 土師器(甕)	

博　多　12

―博多遺跡群第35次調査報告―

福岡市埋蔵文化財調査報告書第177集

昭和63年3月31日

発　行：福岡市教育委員会
福岡市中央区大名2-10-29

印　刷：株式会社 チューエツ